５　特定課題

ＳＤＧｓ（持続可能な開発目標）達成に向けた取組み

問 29　ＳＤＧｓ（持続可能な開発目標）の認知度

ＳＤＧｓ(**エス・ディー・ジーズ**)とは、Sustainable Development Goals(**持続可能な開発目標**)の略称であり、2015年９月の国連サミットにおいて決められた、2030年を期限とする国際社会共通の目標です。「誰一人取り残さない」という理念のもと、貧困問題をはじめ、気候変動やエネルギーなど、持続可能な社会をつくるために取り組むべき課題を17のゴールに分け、①経済、②社会、③環境という３つの側面を調和させて、国際社会全体で統合的に取り組んで行くことが求められています。あなたは、**「ＳＤＧｓ」**または**「持続可能な開発目標」**をご存じですか。次の中から**一つ選んで**番号を○で囲んでください。

		(%)
１	内容を知っている	８．０
２	内容をある程度知っている	２５．８
３	言葉は聞いたことがあるが、内容は知らない	３６．６
４	全く知らない	２９．６

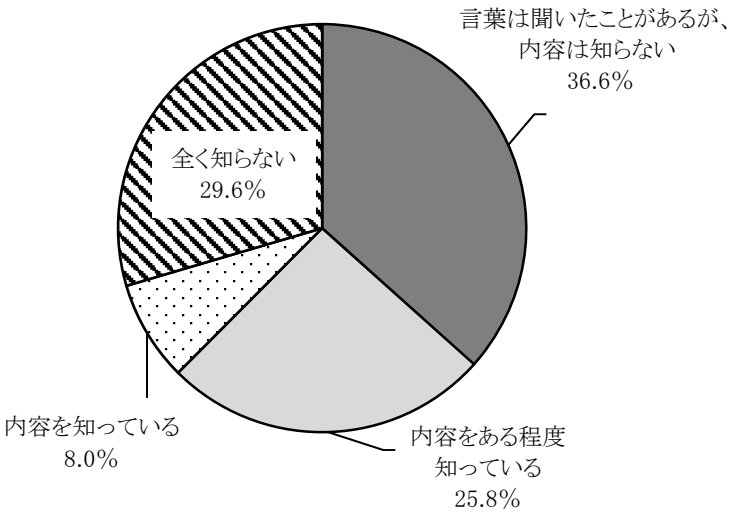
「ＳＤＧｓ」または**「持続可能な開発目標」**について、あなたは、どの程度ご存じですか。次の中から**当てはまるものを全て選んで**番号を○で囲んでください。

《ＳＤＧｓの認知している内容》

	（回答者＝４１０人）（複数回答）	(%)
１	持続可能な開発を目指す上で経済、社会、環境の統合が重要であること	５６．３
２	17 のゴール、169 のターゲットから構成されるということ	２７．６
３	2030 年までに達成すべきゴールであること	３６．８
４	世界共通の目標として推進していること	７６．６
５	目標の実現には、政府や県市町、企業だけでなく、私たち一人ひとりが「自分ごと」として考え、行動することが大切であること	６４．６

「ＳＤＧｓ」または「持続可能な開発目標」について、内容を知っているかと聞いたところ、「言葉は聞いたことがあるが、内容は知らない」と答えた人の割合が 36.6%で最も多く、以下「内容をある程度知っている」(25.8%)、「内容を知っている」(8.0%) の順となっている。

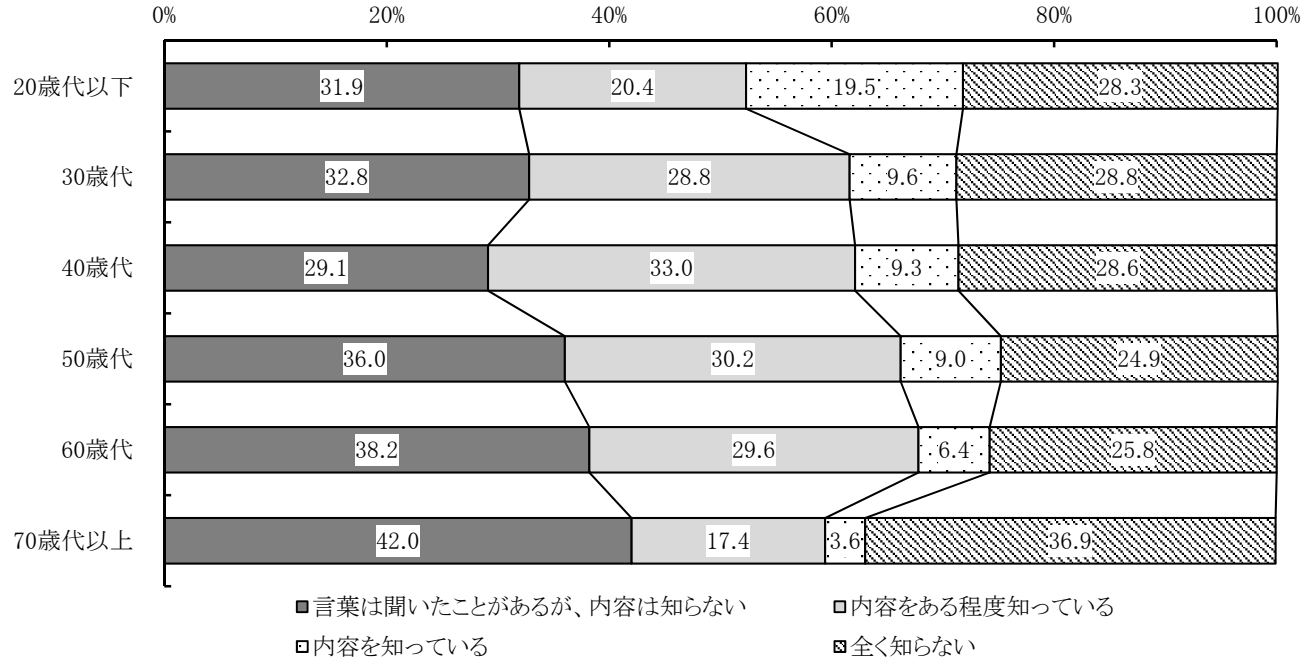
また、「内容を知っている」(「内容を知っている」及び「内容をある程度知っている」)と答えた人の割合が 33.8%で、「内容を知らない」(「言葉は聞いたことがあるが、内容は知らない」及び「全く知らない」)が 66.2%となっている。



【年齢別】

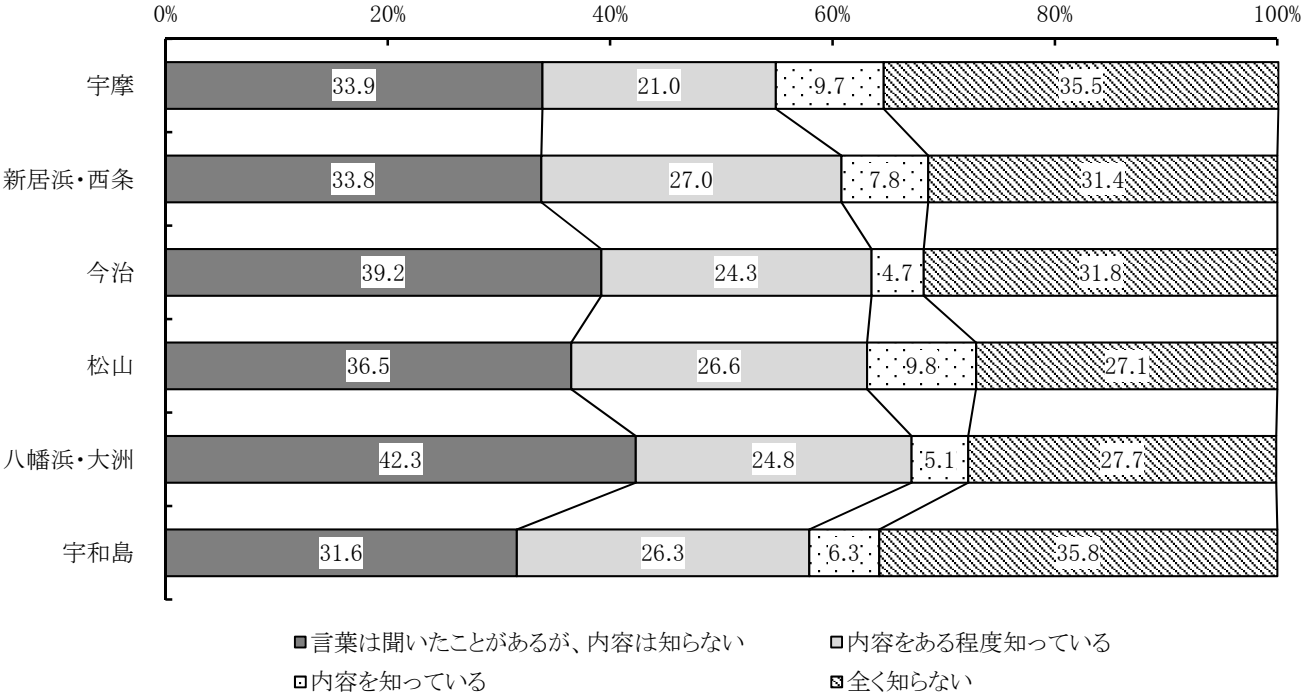
年齢別にみると、「内容を知っている」と答えた人の割合は、20 歳代以下が 19.5%で最も多く、年齢層が高くなるほど少なくなっている。

また、「内容を知っている」(「内容を知っている」及び「内容をある程度知っている」)と答えた人の割合は、40 歳代が 42.3%で最も多く、70 歳代以上では 21.0%と他の年齢層と比較して少なくなっている。



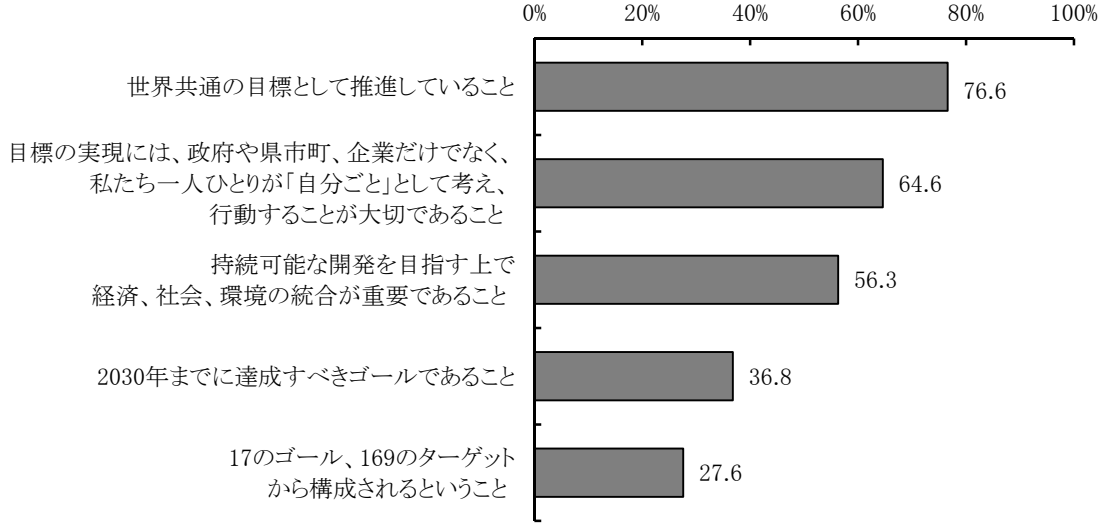
【生活圏域別】

生活圏域別にみると、「内容を知っている」(「内容を知っている」及び「内容をある程度知っている」)と答えた人の割合は、松山圏域が 36.4%で最も多く、今治圏域で最も少なくなっている。



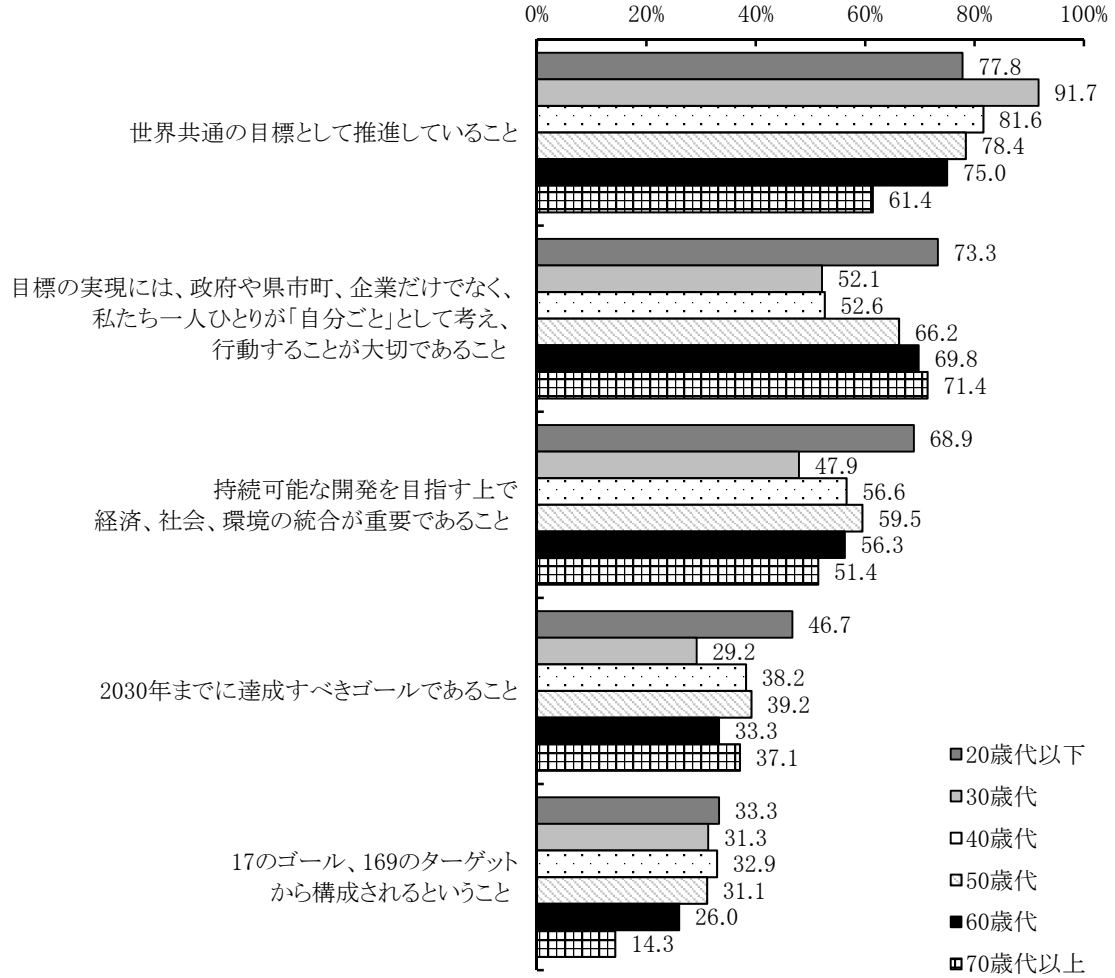
《ＳＤＧｓの認知している内容》

「ＳＤＧｓ」または「持続可能な開発目標」について、内容を知っていると答えた人に、どの程度知っているかと聞いたところ、「世界共通の目標として推進していること」と答えた人の割合が 76.6%で最も多く、以下「目標の実現には、政府や県市町、企業だけでなく、私たち一人ひとりが「自分ごと」として考え、行動することが大切であること」(64.6%)、「持続可能な開発を目指す上で経済、社会、環境の統合が重要であること」(56.3%)、「2030 年までに達成すべきゴールであること」(36.8%)、「17 のゴール、169 のターゲットから構成されるということ」(27.6%) の順となっている。



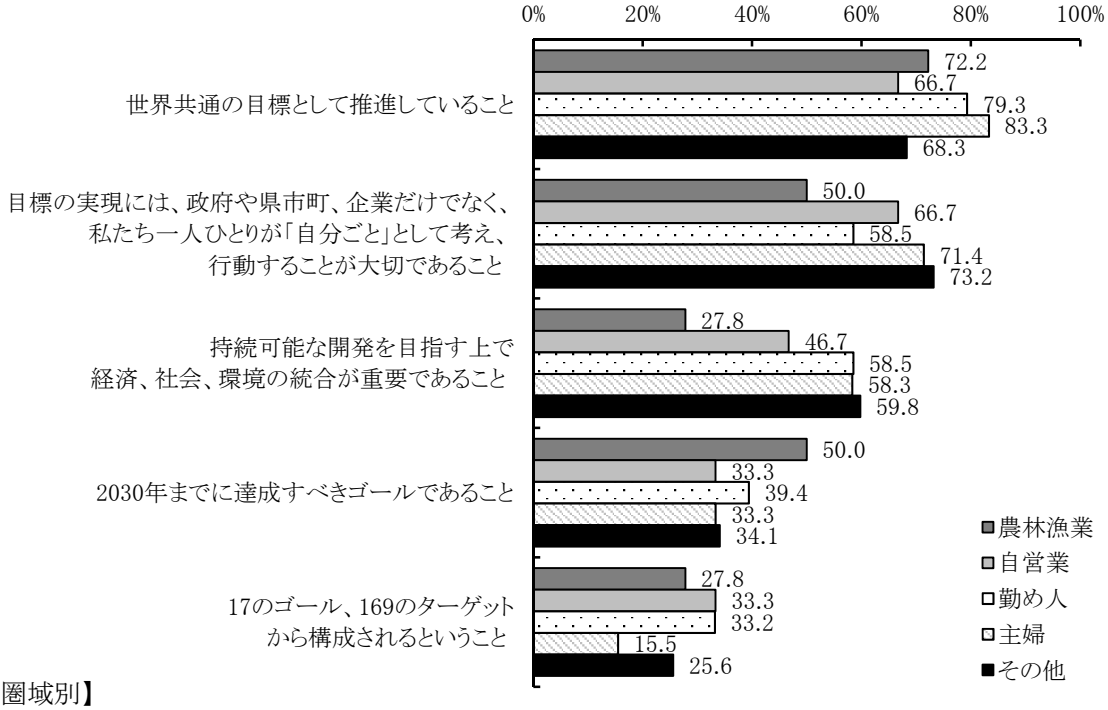
【年齢別】

年齢別にみると、70 歳代以上を除く全ての年齢層で、「世界共通の目標として推進していること」と答えた人の割合が最も多く、特に 30 歳代では、91.7%で最も多くなっている。70 歳代以上では、「目標の実現には、政府や県市町、企業だけでなく、私たち一人ひとりが「自分ごと」として考え、行動することが大切であること」と答えた人の割合が最も多くなっている。



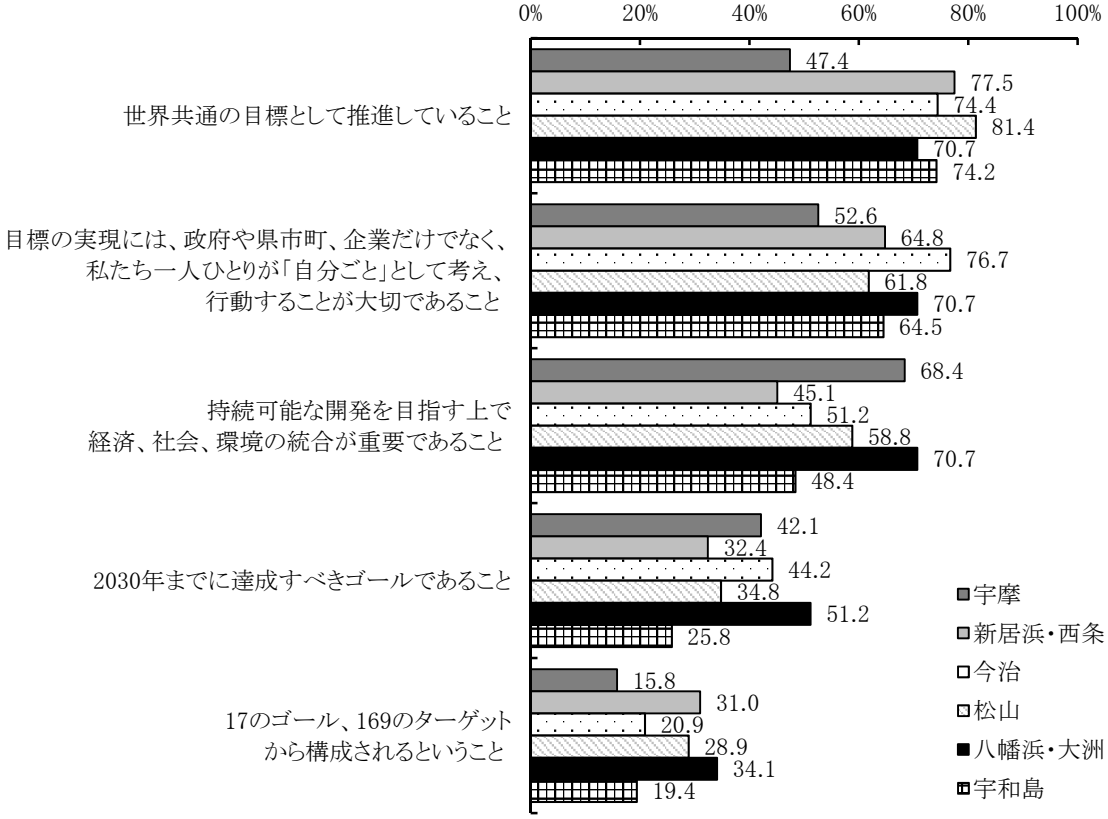
【職業別】

職業別にみると、その他を除く全ての職種で、「世界共通の目標として推進していること」と答えた人の割合が最も多く、その他では、「目標の実現には、政府や県市町、企業だけでなく、私たち一人ひとりが「自分ごと」として考え、行動することが大切であること」が最も多くなっている。自営業では、「目標の実現には、政府や県市町、企業だけでなく、私たち一人ひとりが「自分ごと」として考え、行動することが大切であること」と答えた人の割合も同率で最も多くなっている。



【生活圏域別】

生活圏域別にみると、宇摩圏域及び今治圏域を除く全ての圏域で、「世界共通の目標として推進していること」と答えた人の割合が最も多く、宇摩圏域では「持続可能な開発を目指す上で経済、社会、環境の統合が重要であること」が、今治圏域では、「目標の実現には、政府や県市町、企業だけでなく、私たち一人ひとりが「自分ごと」として考え、行動することが大切であること」が最も多くなっている。八幡浜・大洲圏域では、「目標の実現には、政府や県市町、企業だけでなく、私たち一人ひとりが「自分ごと」として考え、行動することが大切であること」及び「持続可能な開発を目指す上で経済、社会、環境の統合が重要であること」と答えた人の割合も同率で最も多くなっている。



問 30　ＳＤＧｓの関心度

「誰一人取り残さない」社会を実現するためには、私たち一人ひとりが「自分ごと」として考え、行動することが大切です。私たちの生活の中には、ＳＤＧｓの達成に向けてできることがたくさんあります。あなたは、「ＳＤＧｓ」に関心がありますか。次の中から**一つ選んで**番号を○で囲んでください。

		(%)
1	関心があり、家庭や職場で取り組んでいる	７．４
2	関心があり、今後取り組んでいきたい	１６．６
3	関心はあるが、どう取り組めばよいのかわからない	４７．５
4	関心はあるが、取り組む意向はない	１３．５
5	関心はない	１５．０

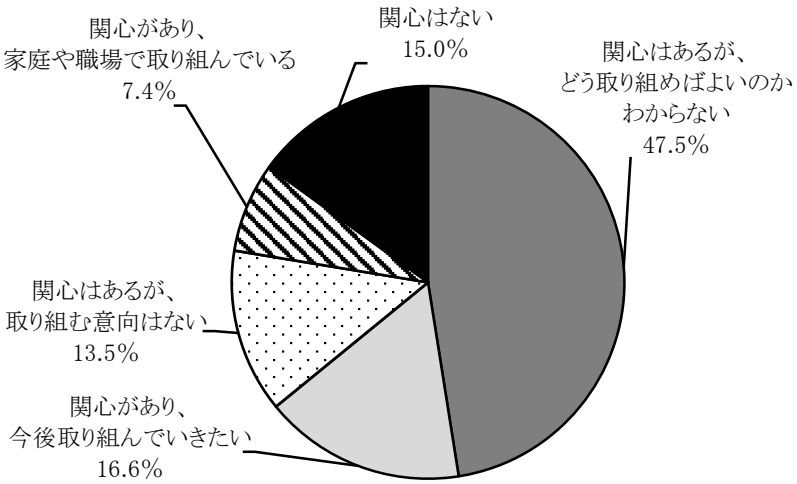
あなたは、どのような取組みを行っていますか。また、今後どのような取組みを行っていきたいですか。次の中から**当てはまるものを全て選んで**番号を○で囲んでください。

《ＳＤＧｓの取組み内容》

（回答者＝８３１人）（複数回答）

		(%)
1	フェアトレードの商品を選ぶ	６．９
2	食べ残しをしないなど、食品ロスを削減する	８１．２
3	徒歩や自転車通勤・通学をする	１６．４
4	子どもたちと環境について話し合う	１２．９
5	性別にかかわらず仕事や家事を分担・協力する	３９．４
6	顔や手を洗う時に水をこまめに止めるなど、水を節約する	５２．８
7	再生紙を使用した商品やエコマーク認定商品など、環境に配慮した商品を購入する	３８．５
8	休暇をきちんと取る	３０．９
9	災害復旧などに募金する	１９．４
10	差別をしない	６２．０
11	災害時の避難場所を確認する	３４．５
12	マイボトルやエコバッグを持ち歩く	６９．９
13	電気をつけっぱなしにしないなど、電気を節約する	６７．５
14	海や川に行ったらゴミは持ち帰る	６６．２
15	ペットボトルや衣料などのリサイクル	５６．７
16	選挙に参加する	５４．５
17	周りの人とＳＤＧｓについて話してみる	８．８
18	その他	０．６

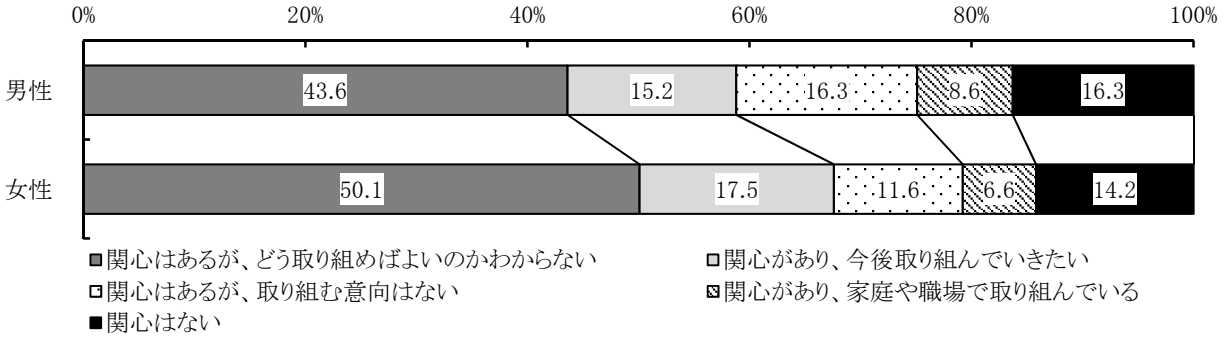
「ＳＤＧｓ」に関心があるかと聞いたところ、「関心はあるが、どう取り組めばよいのかわからない」と答えた人の割合が 47.5％で最も多く、以下「関心があり、今後取り組んでいきたい」（16.6％）、「関心はない」（15.0％）、「関心はあるが、取り組む意向はない」（13.5％）、「関心があり、家庭や職場で取り組んでいる」（7.4％）の順となっている。



【性別】

性別にみると、男女共に「関心はあるが、どう取り組めばよいのかわからない」と答えた人の割合が最も多く、女性（50.1％）の方が男性（43.6％）より 6.5 ポイント多くなっている。

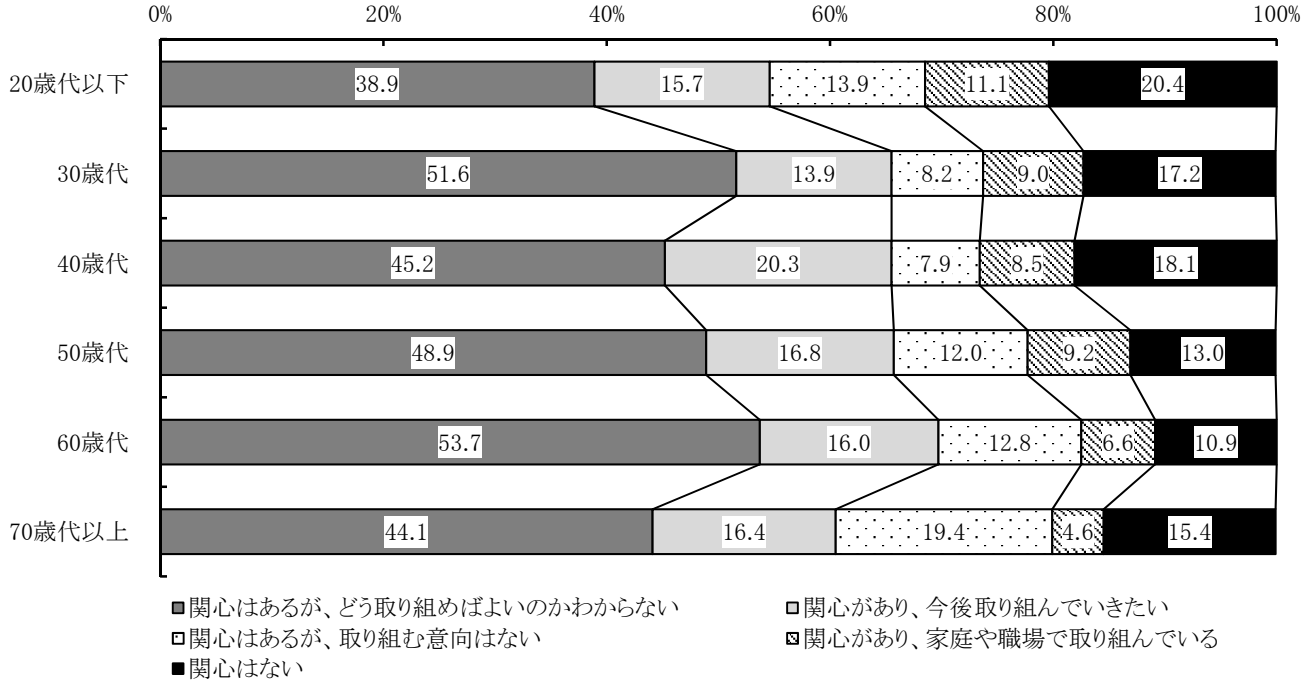
また、「関心があり、家庭や職場で取り組んでいる」と答えた人の割合は、男性（8.6％）の方が女性（6.6％）より2.0ポイント多くなっている。「関心があり、今後取り組んでいきたい」と答えた人の割合は、女性（17.5％）の方が男性（15.2％）より2.3ポイント多くなっている。



【年齢別】

年齢別にみると、全ての年齢層で、「関心はあるが、どう取り組めばよいのかわからない」と答えた人の割合が最も多く、特に30歳代及び60歳代では、5割を超え多くなっている。

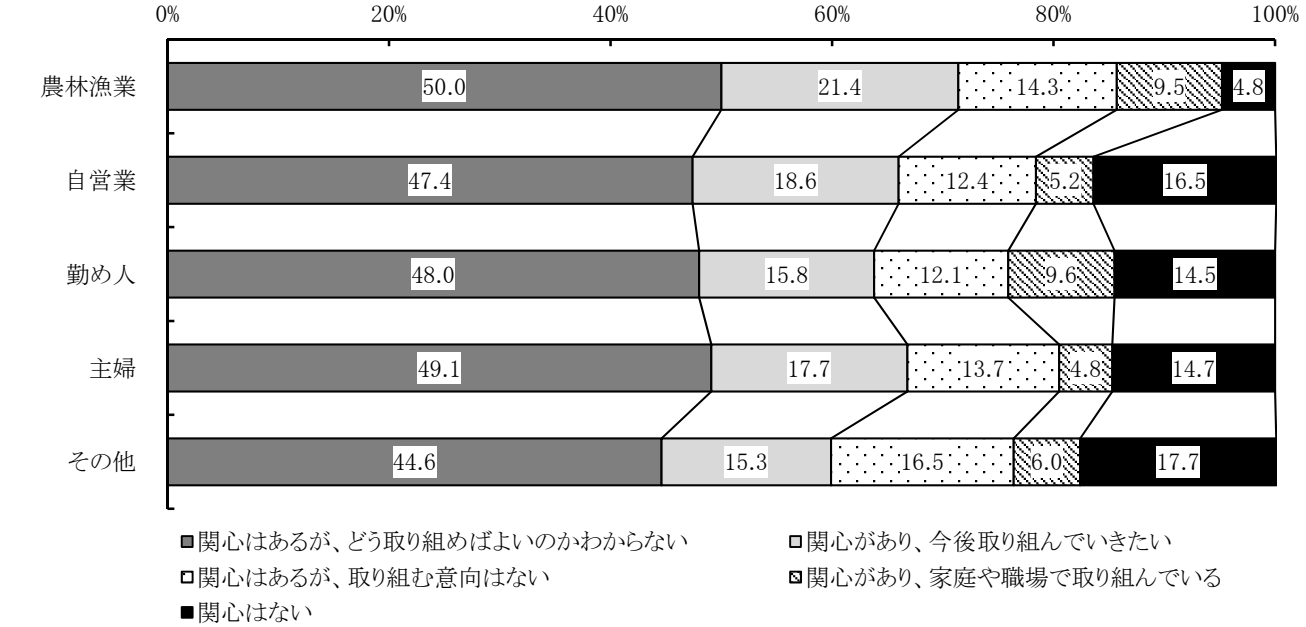
また、「関心があり、家庭や職場で取り組んでいる」と答えた人の割合は、20歳代以下が11.1%で最も多く、「関心があり、今後取り組んでいきたい」と答えた人の割合は、40歳代が20.3%で最も多くなっている。



【職業別】

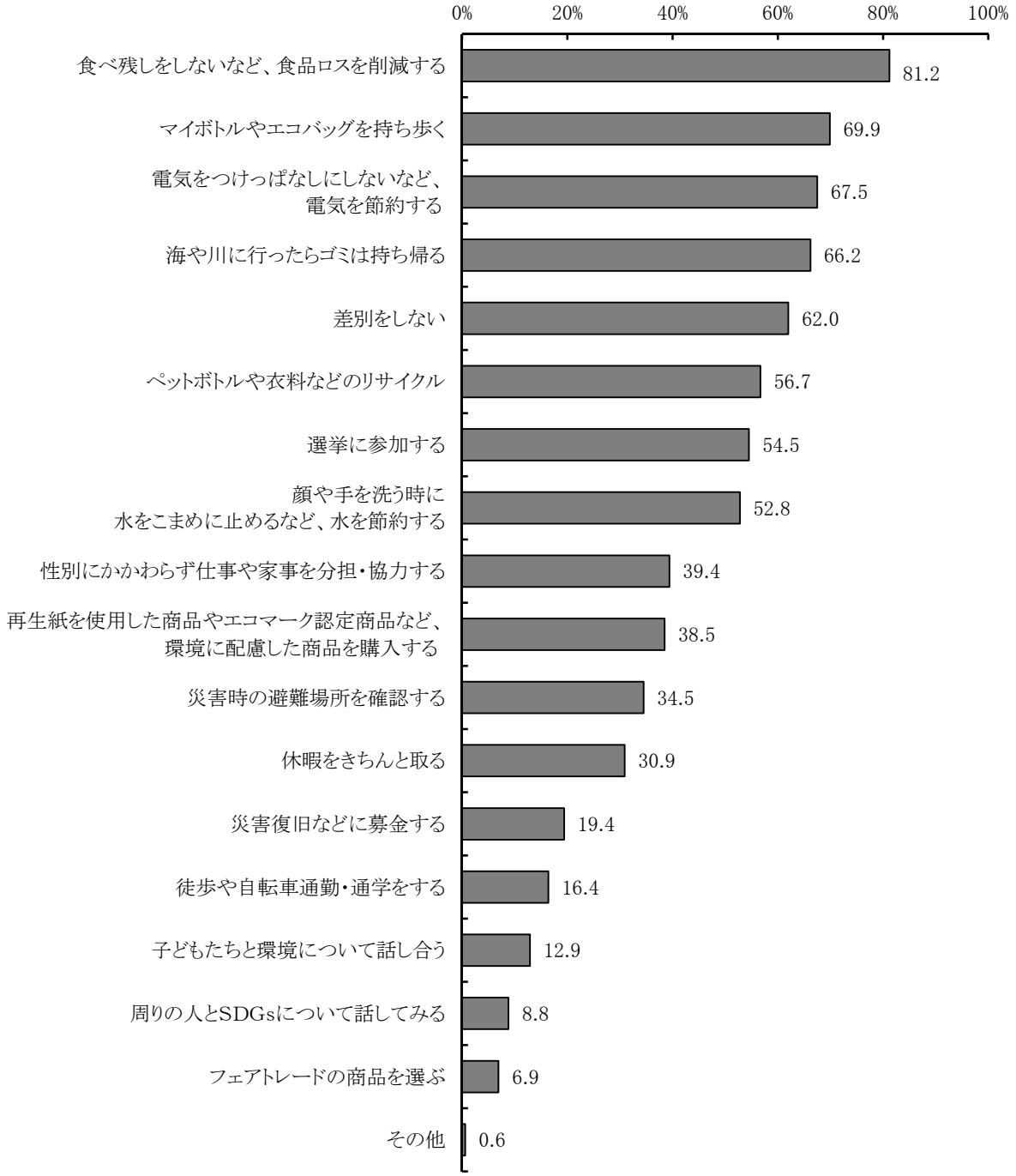
職業別にみると、全ての職種で、「関心はあるが、どう取り組めばよいのかわからない」と答えた人の割合が最も多くなっている。

また、「関心があり、家庭や職場で取り組んでいる」と答えた人の割合は、全ての職種で、1割未満となっている。「関心があり、今後取り組んでいきたい」と答えた人の割合は、農林漁業が21.4%で最も多くなっている。



《ＳＤＧｓの取組み内容》

「ＳＤＧｓ」に取り組んでいる、もしくは、今後取り組んでいきたいと答えた人に、取組内容を聞いたところ、「食べ残しをしないなど、食品ロスを削減する」と答えた人の割合が81.2%で最も多く、以下「マイボトルやエコバッグを持ち歩く」（69.9%）、「電気をつけっぱなしにしないなど、電気を節約する」（67.5%）、「海や川に行ったらゴミは持ち帰る」（66.2%）、「差別をしない」（62.0%）、「ペットボトルや衣料などのリサイクル」（56.7%）、「選挙に参加する」（54.5%）、「顔や手を洗う時に水をこまめに止めるなど、水を節約する」（52.8%）などの順となっている。

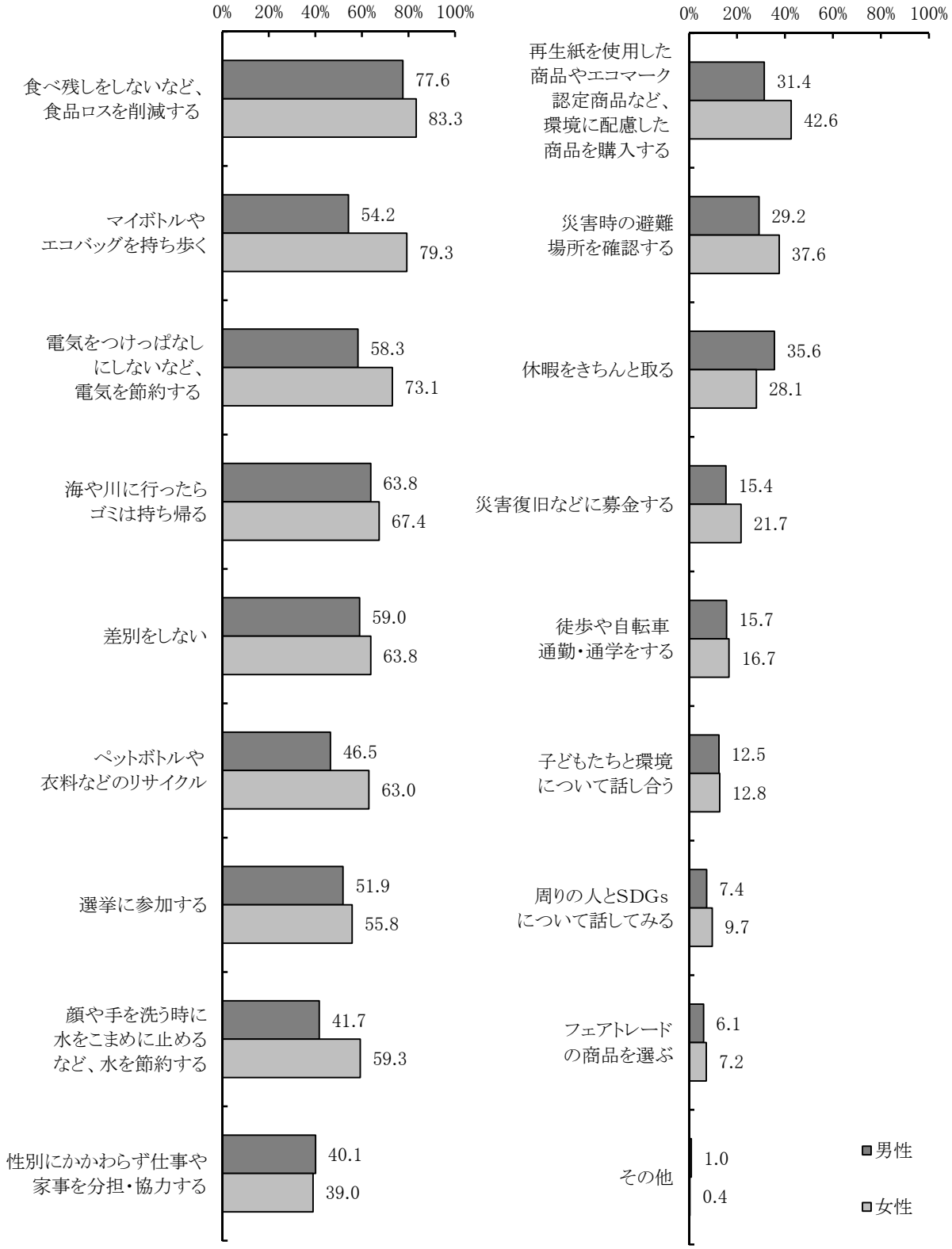


【性別】

性別にみると、男女共に「食べ残しをしないなど、食品ロスを削減する」と答えた人の割合が最も多く、女性（83.3%）の方が男性（77.6%）より 5.7 ポイント多くなっている。

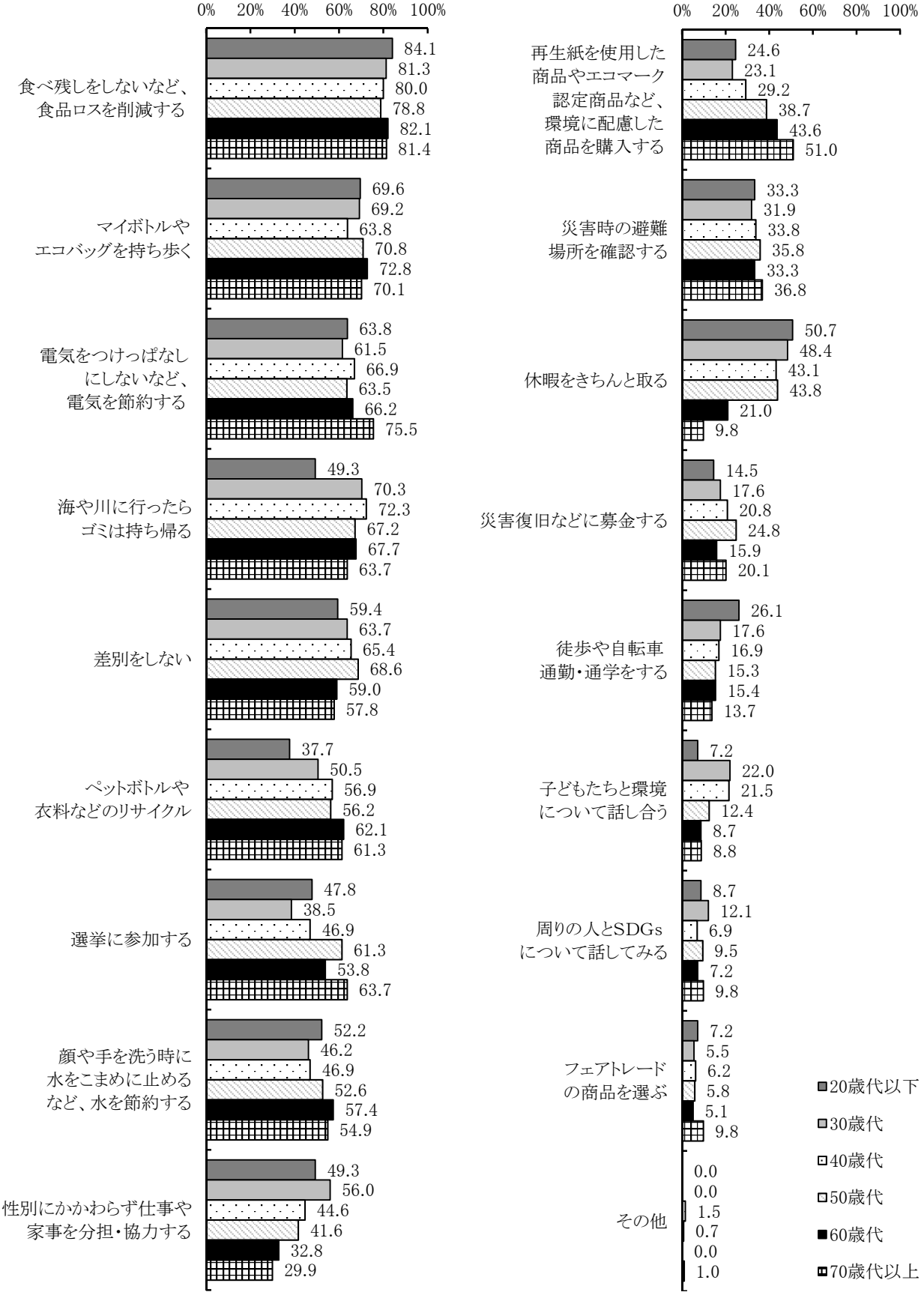
また、「マイボトルやエコバッグを持ち歩く」と答えた人の割合は、女性（79.3%）の方が男性（54.2%）より 25.1 ポイントと特に多く、以下「顔や手を洗う時に水をこまめに止めるなど、水を節約する」、「ペットボトルや衣料などのリサイクル」と答えた人の割合は、女性の方が多くなっている。

一方、「休暇をきちんととる」と答えた人の割合は、男性（35.6%）の方が女性（28.1%）より 7.5 ポイント多くなっている。



【年齢別】

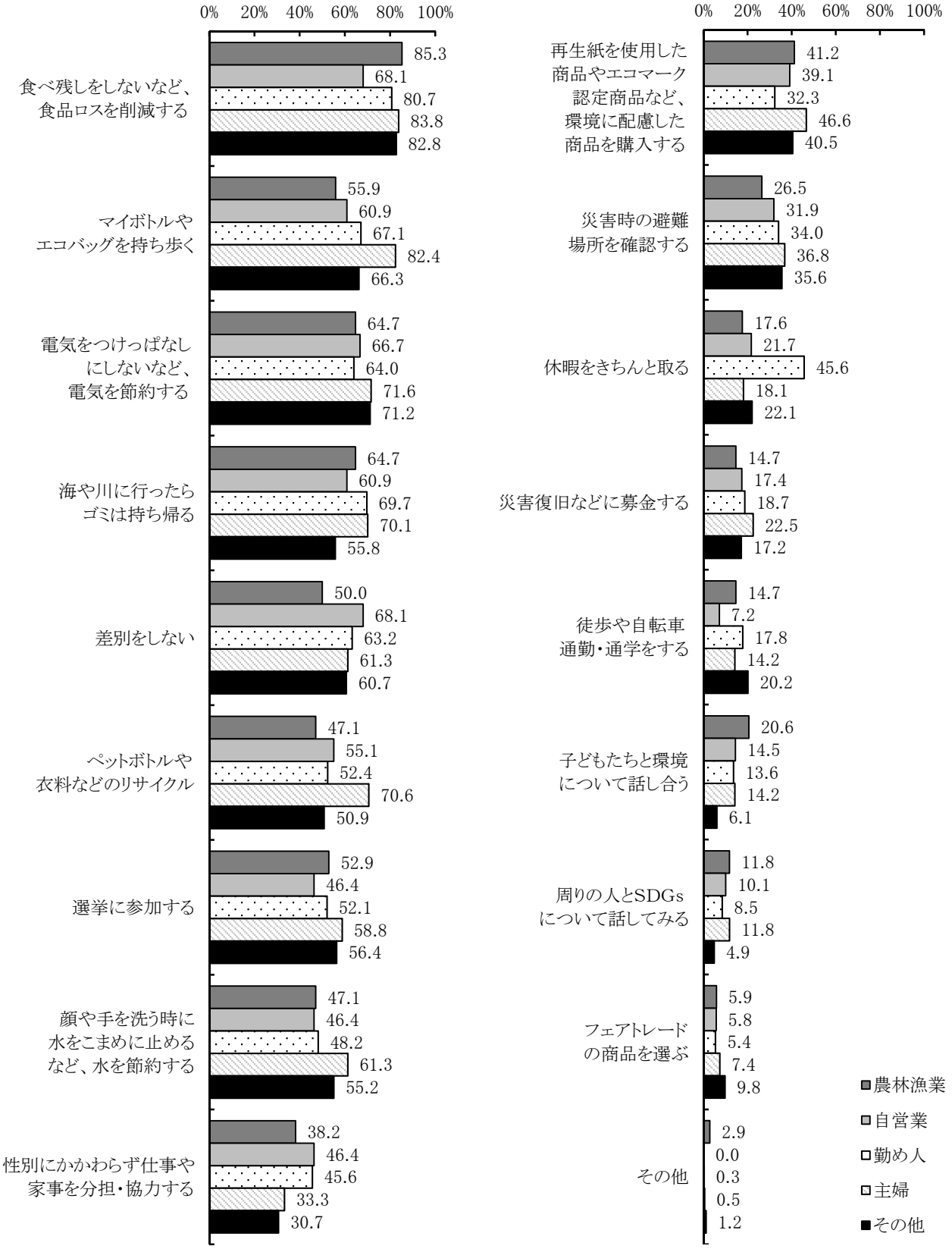
年齢別にみると、全ての年齢層で、「食べ残しをしないなど、食品ロスを削減する」と答えた人の割合が最も多くなっている。次いで 30 歳代、40 歳代及び 70 歳代以上を除く全ての年齢層で、「マイボトルやエコバッグを持ち歩く」と答えた人の割合が多く、30 歳代及び 40 歳代では、「海や川に行ったらゴミは持ち帰る」が、70 歳代以上では、「電気をつけっぱなしにしないなど、電気を節約する」が多くなっている。



【職業別】

職業別にみると、全ての職種で、「食べ残しをしないなど、食品ロスを削減する」と答えた人の割合が最も多く、自営業を除く全ての職種で８割台となっている。自営業では、「差別をしない」と答えた人の割合も同率で最も多くなっている。

また、主婦では、「マイボトルやエコバッグを持ち歩く」と答えた人の割合が 82.4％と、他の職種と比較して特に多くなっている。



自転車新文化の推進

問 31　自転車新文化の認知度

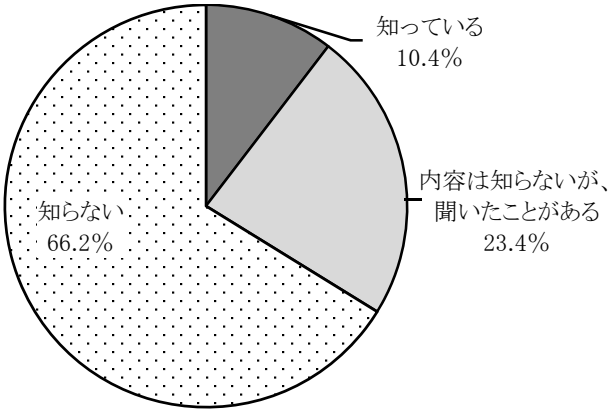
県では、平成 23 年度から**「自転車新文化の推進」**に取り組んでいますが、あなたは、**「自転車新文化」**をご存知ですか。次の中から**一つ選んで**番号を○で囲んでください。

≪「自転車新文化」とは≫

サイクリングを核にして交流人口を拡大することにより、地域の活性化に繋げるとともに、県民に自転車を活用したライフスタイルを提案し、「健康」、「生きがい」、「友情」を育み、生活の向上を図ろうとする取組み。

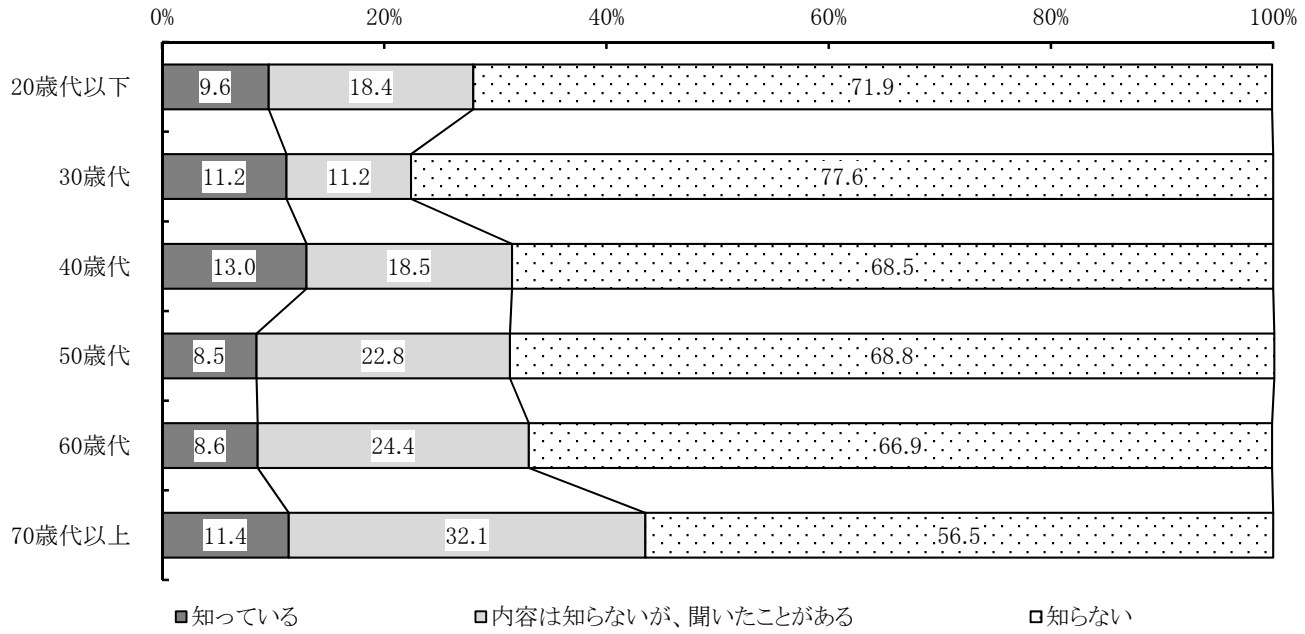
		(%)
1	知っている	１０．４
2	内容は知らないが、聞いたことがある	２３．４
3	知らない	６６．２

自転車新文化について聞いたところ、「知っている」と答えた人の割合が 10.4%、「知らない」と答えた人の割合が 66.2%で最も多くなっている。



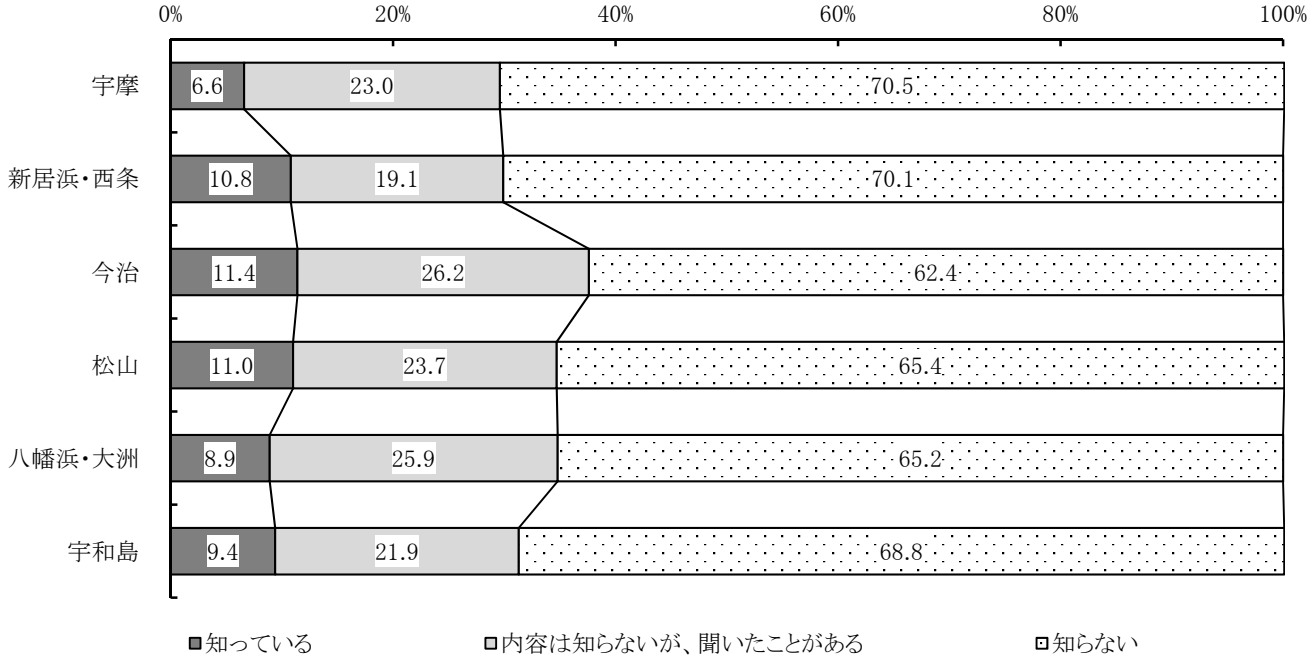
【年齢別】

年齢別にみると、全ての年齢層で、「知らない」と答えた人の割合が最も多く、特に 30 歳代以下では 7 割を超えている。「知っている」と答えた人の割合は、40 歳代で最も多くなっている。



【生活圏域別】

生活圏域別にみると、全ての圏域で「知らない」と答えた人の割合が最も多く、宇摩圏域で「知らない」と答えた人の割合が他の圏域と比較して多くなっている。また、今治圏域で「知っている」と答えた人の割合が多くなっている。

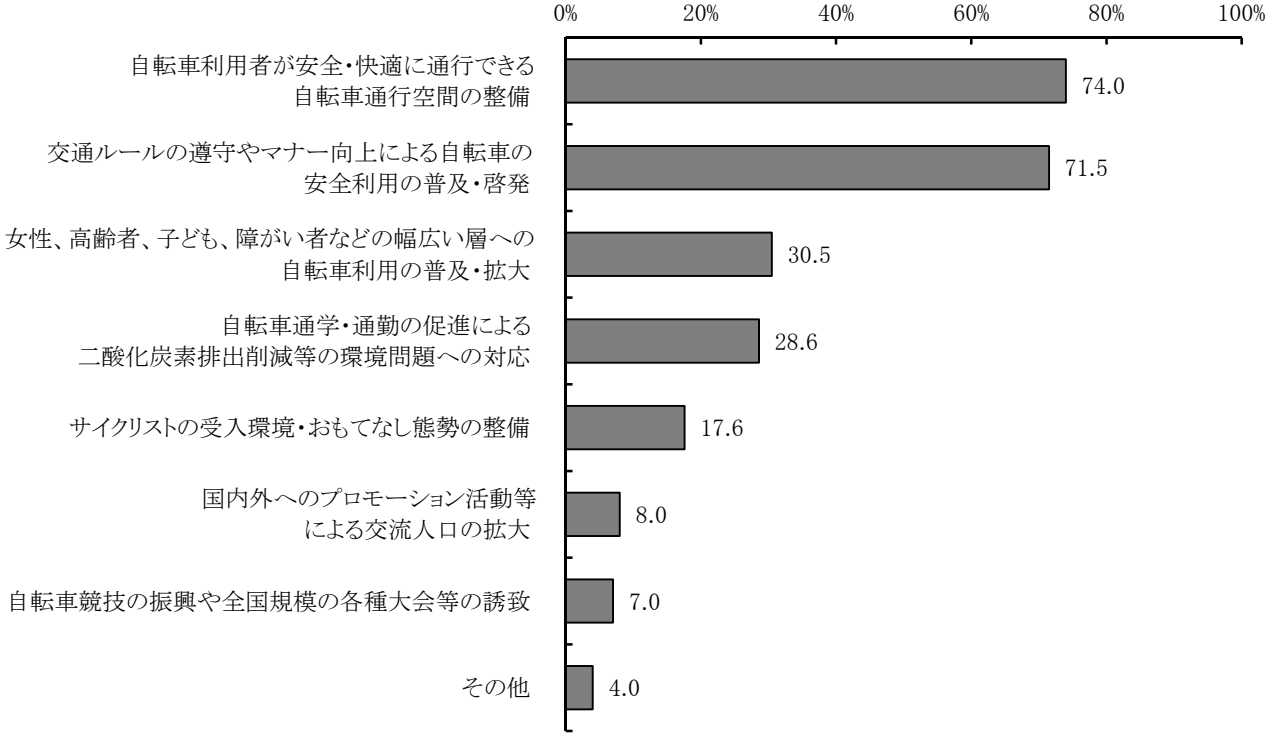


問 31-1　自転車新文化の普及・拡大に向けた県の取組み

「自転車新文化」の更なる普及・拡大のため、今後、県はどのようなことに力を入れていくべきだと思いますか。次の中から**三つまで選んで**番号を○で囲んでください。

	（複数回答）	（%）
1	女性、高齢者、子ども、障がい者などの幅広い層への自転利用の普及・拡大	３０．５
2	自転車通学・通勤の促進による二酸化炭素排出削減等の環境問題への対応	２８．６
3	国内外へのプロモーション活動等による交流人口の拡大	８．０
4	サイクリストの受入環境・おもてなし態勢の整備	１７．６
5	自転車利用者が安全・快適に通行できる自転車通行空間の整備	７４．０
6	交通ルールの遵守やマナー向上による自転車の安全利用の普及・啓発	７１．５
7	自転車競技の振興や全国規模の各種大会等の誘致	７．０
8	その他	４．０

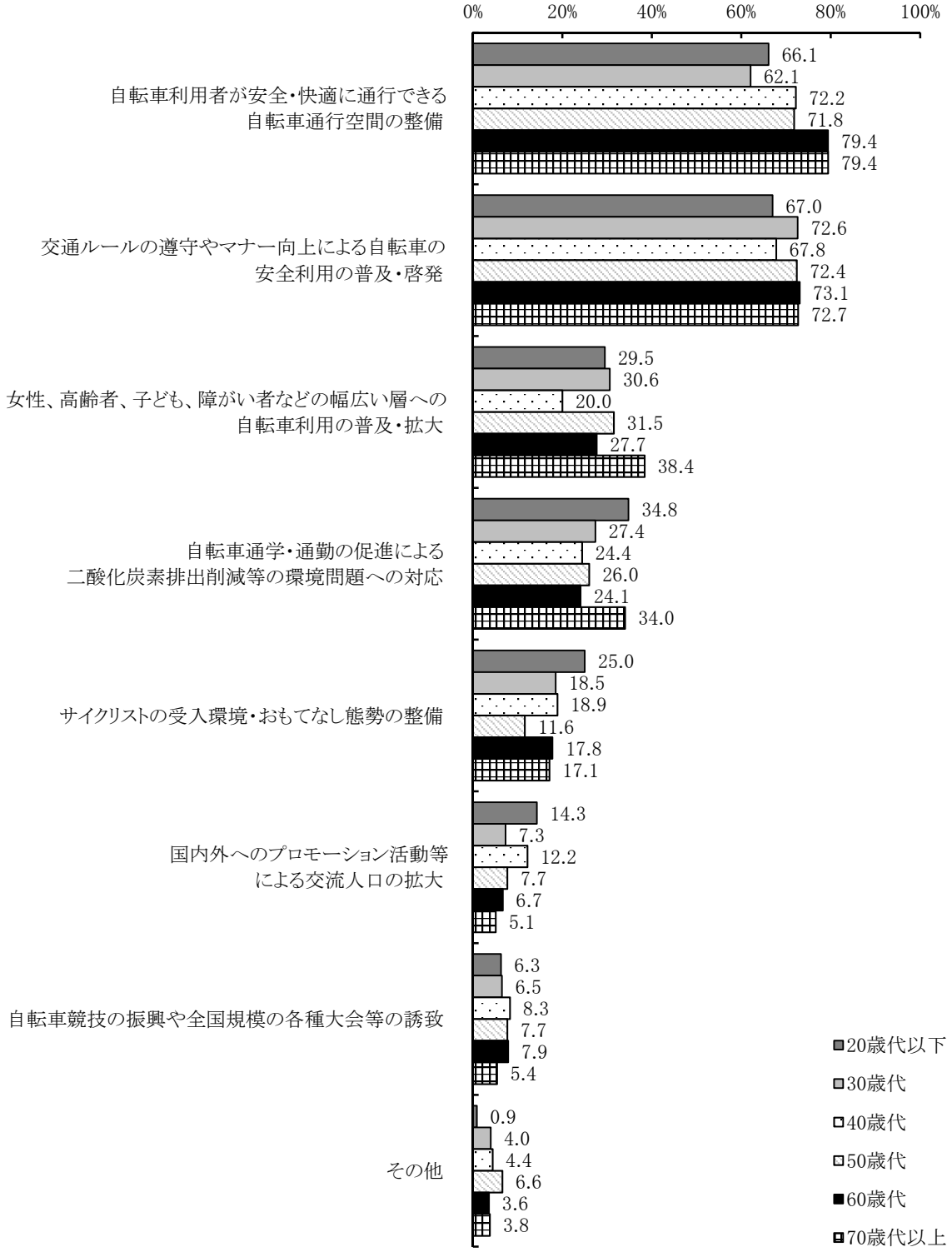
自転車新文化の普及・拡大のため力を入れる取組について聞いたところ、「自転車利用者が安全・快適に通行できる自転車通行空間の整備」と答えた人の割合が 74.0%で最も多く、以下「交通ルールの遵守やマナー向上による自転車の安全利用の普及・啓発」(71.5%)、「女性、高齢者、子ども、障がい者などの幅広い層への自転車利用の普及・拡大」(30.5%)、「自転車通学・通勤の促進による二酸化炭素排出削減等の環境問題への対応」(28.6%)、「サイクリストの受入環境・おもてなし態勢の整備」(17.6%) などの順となっている。



【年齢別】

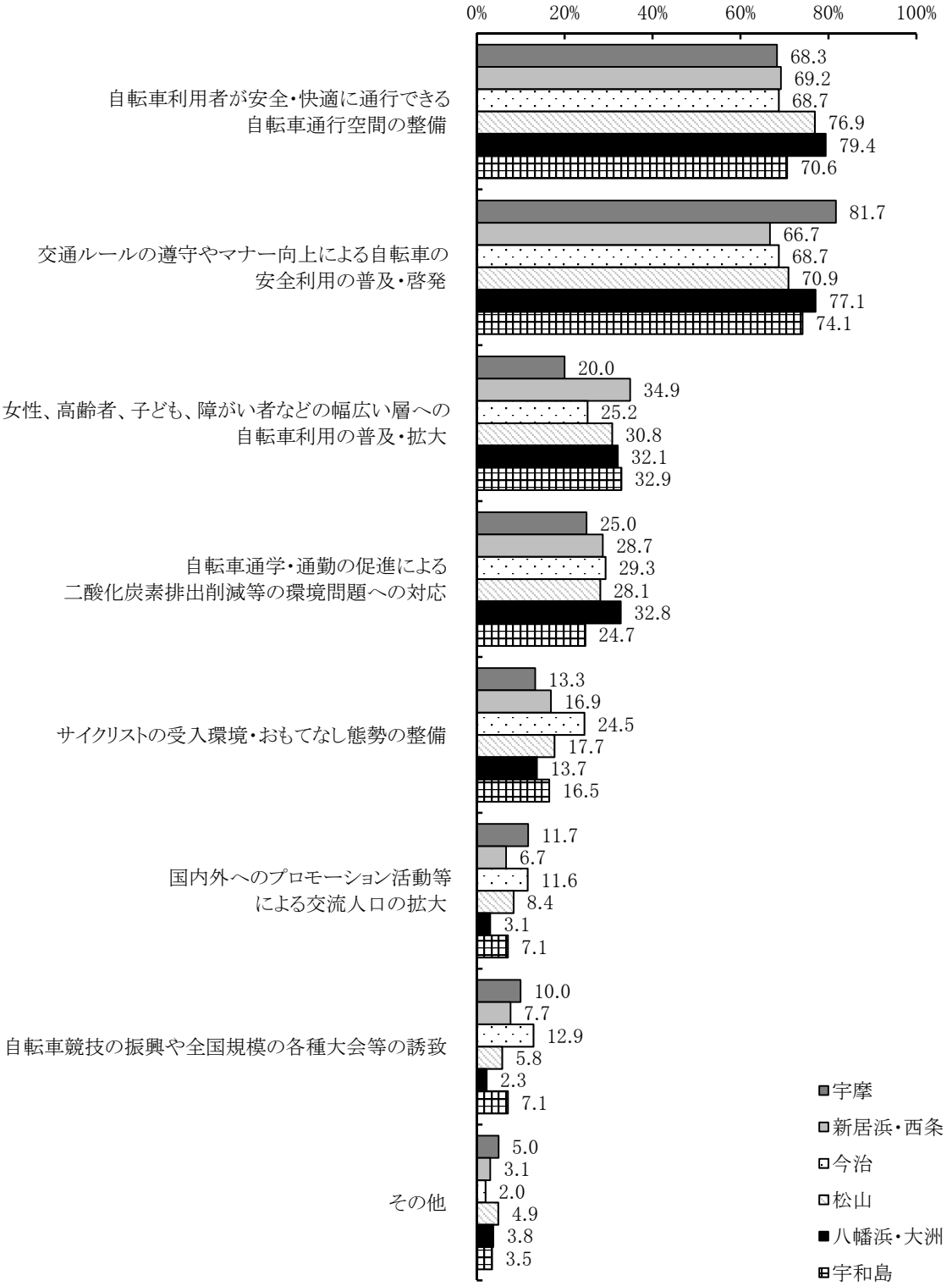
年齢別にみると、40 歳代、60 歳代以上では、「自転車利用者が安全・快適に通行できる自転車通行空間の整備」と答えた人の割合が最も多く、30 歳代以下及び 50 歳代では、「交通ルールの遵守やマナー向上による自転車の安全利用の普及・啓発」が最も多くなっている。

また、「女性、高齢者、子ども、障がい者などの幅広い層への自転車利用の普及・拡大」と答えた人の割合は 70 歳代以上で他の年齢層と比較して多く、「サイクリストの受入環境・おもてなし態勢の整備」は 20 歳代以下で他の年齢層と比較して多くなっている。



【生活圏域別】

生活圏域別にみると、新居浜・西条圏域、松山圏域及び八幡浜・大洲圏域では「自転車利用者が安全・快適に通行できる自転車通行空間の整備」と答えた人の割合が、宇摩圏域及び宇和島圏域では「交通ルールの遵守やマナー向上による自転車の安全利用の普及・啓発」が最も多く、特に宇摩圏域では8割を超えている。今治圏域では、「自転車利用者が安全・快適に通行できる自転車通行空間の整備」及び「交通ルールの遵守やマナー向上による自転車の安全利用の普及・啓発」と答えた人の割合が同率で最も多くなっている。



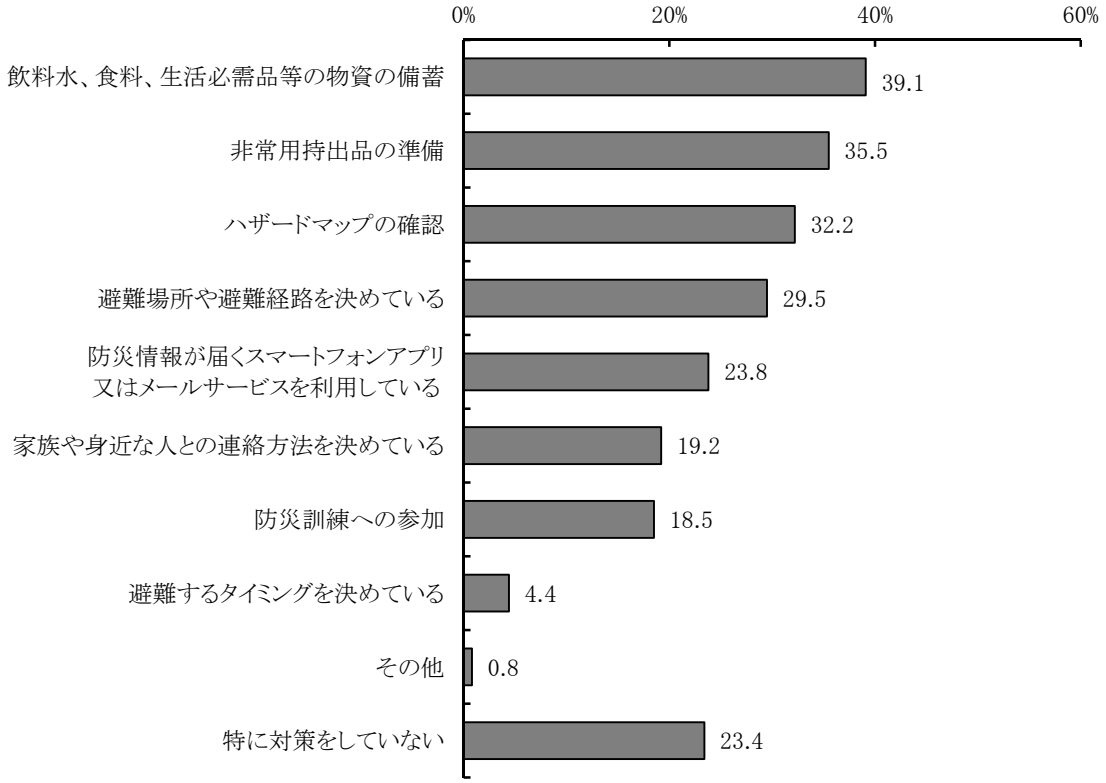
防災に関する意識
問 32　災害に対する備え

あなたのお宅では、災害に対してどのような備えをしていますか。次の中から**当てはまるもの全てを選んで**番号を○で囲んでください。

	（複数回答）	（%）
1	飲料水、食料、生活必需品等の物資の備蓄	３９．１
2	非常用持出品の準備	３５．５
3	ハザードマップの確認	３２．２
4	避難場所や避難経路を決めている	２９．５
5	避難するタイミングを決めている	４．４
6	家族や身近な人との連絡方法を決めている	１９．２
7	防災情報が届くスマートフォンアプリ又はメールサービスを利用している	２３．８
8	防災訓練への参加	１８．５
9	その他	０．８
10	特に対策をしていない	２３．４

災害に対する備えについて聞いたところ、「飲料水、食料、生活必需品等の物資の備蓄」と答えた人の割合が 39.1%で最も多く、以下「非常用持出品の準備」(35.5%)、「ハザードマップの確認」(32.2%)、「避難所や避難経路を決めている」(29.5%) などの順となっている。

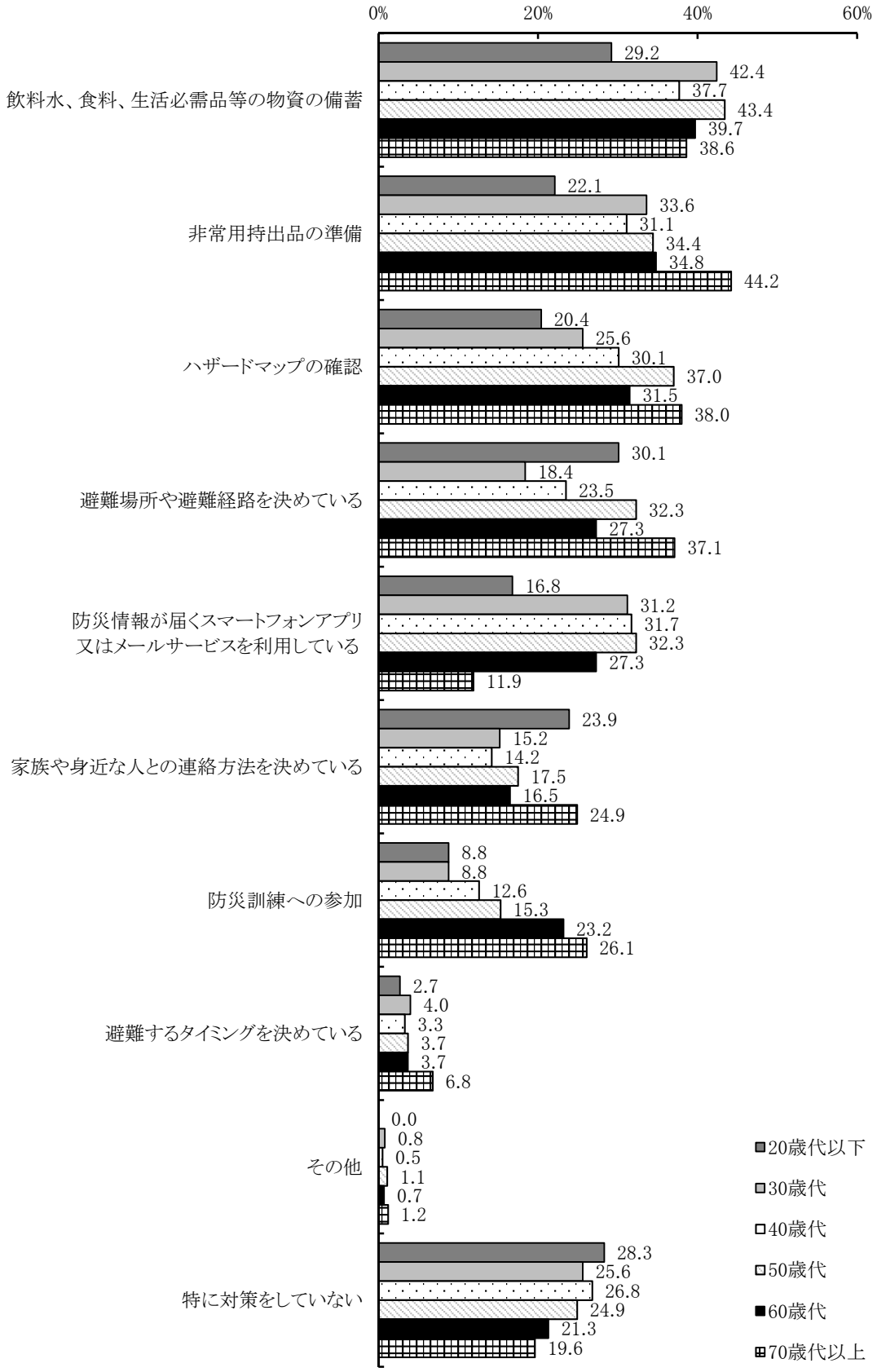
一方、「特に対策をしていない」と答えた人の割合は 23.4%となっている。



【年齢別】

年齢別にみると、20 歳代以下及び 70 歳代以上を除く全ての年齢層で、「飲料水、食料、生活必需品等の物資の備蓄」と答えた人の割合が最も多く、20 歳代以下では、「避難所や避難経路を決めている」が、70 歳代以上では、「非常用持出品の準備」が最も多くなっている。

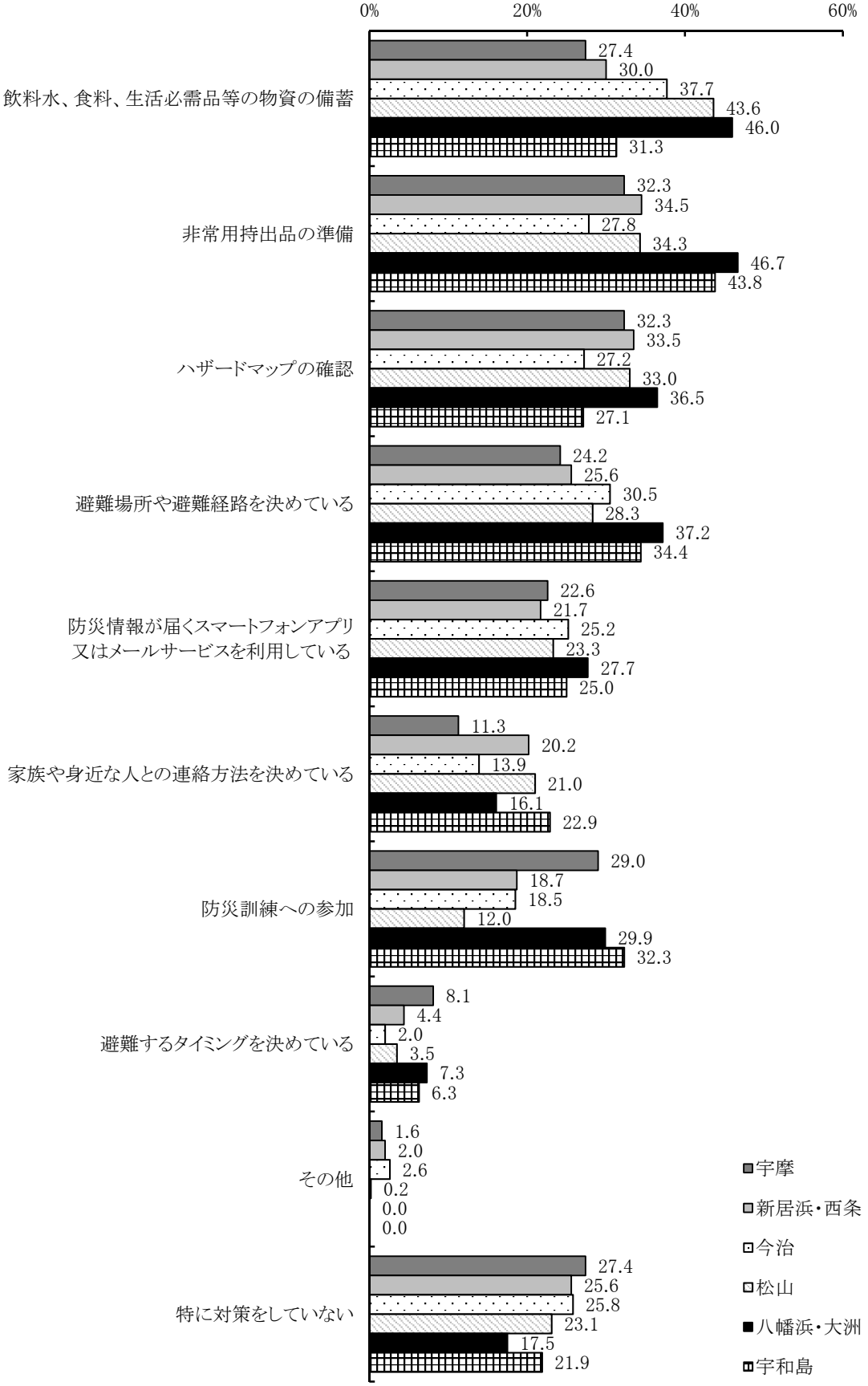
また、「防災訓練への参加」と答えた人の割合は、年齢層が高くなるほど多くなっており、70 歳代以上で 26.1%と最も多くなっている。「防災情報が届くスマートフォンアプリ又はメールサービスを利用している」と答えた人の割合が多いのは、30 歳代から 50 歳代で 3 割を超え、他の年齢層と比較して多くなっている。



【生活圏域別】

生活圏域別にみると、宇摩圏域では、「非常用持出品の準備」及び「ハザードマップの確認」と答えた人の割合が最も多く、今治圏域及び松山圏域では、「飲料水、食料、生活必需品等の物資の備蓄」が、新居浜・西条圏域、八幡浜・大洲圏域及び宇和島圏域では、「非常用持出品の準備」が最も多くなっている。

また、「防災訓練への参加」は、宇和島圏域（32.3%）が最も多く、松山圏域（12.0%）が最も少なくなっている。



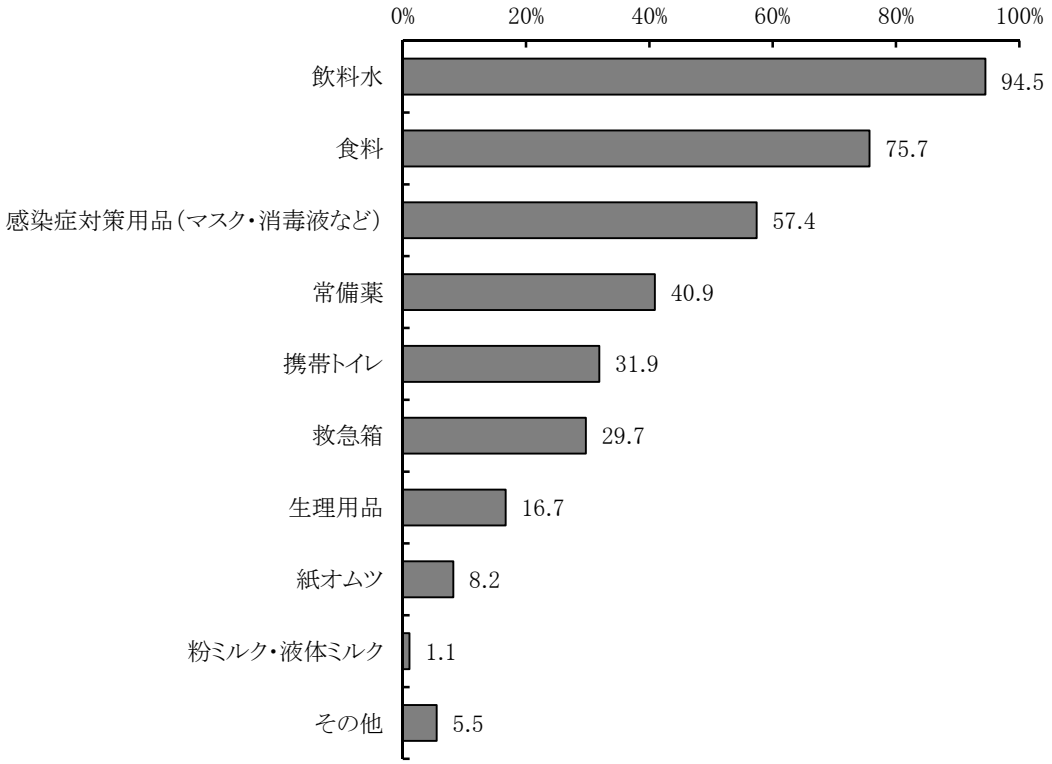
問 32-1　食料、水、生活必需品等備蓄しているもの

（問 32 で「飲料水、食料、生活必需品等の物資の備蓄」と答えた方に）
災害に備え備蓄しているものは何ですか。次の中から**当てはまるもの全てを選んで**番号を○で囲んでください。

（回答者＝４７４人）（複数回答）　（%）

1	飲料水	９４．５
2	食料	７５．７
3	常備薬	４０．９
4	救急箱	２９．７
5	携帯トイレ	３１．９
6	粉ミルク・液体ミルク	１．１
7	紙オムツ	８．２
8	生理用品	１６．７
9	感染症対策用品（マスク・消毒液など）	５７．４
10	その他	５．５

災害に備え備蓄しているものについて聞いたところ、「飲料水」と答えた人の割合が 94.5%で最も多く、以下「食料」(75.7%)、「感染症対策用品（マスク・消毒液など)」(57.4%)、「常備薬」(40.9%) などの順となっている。

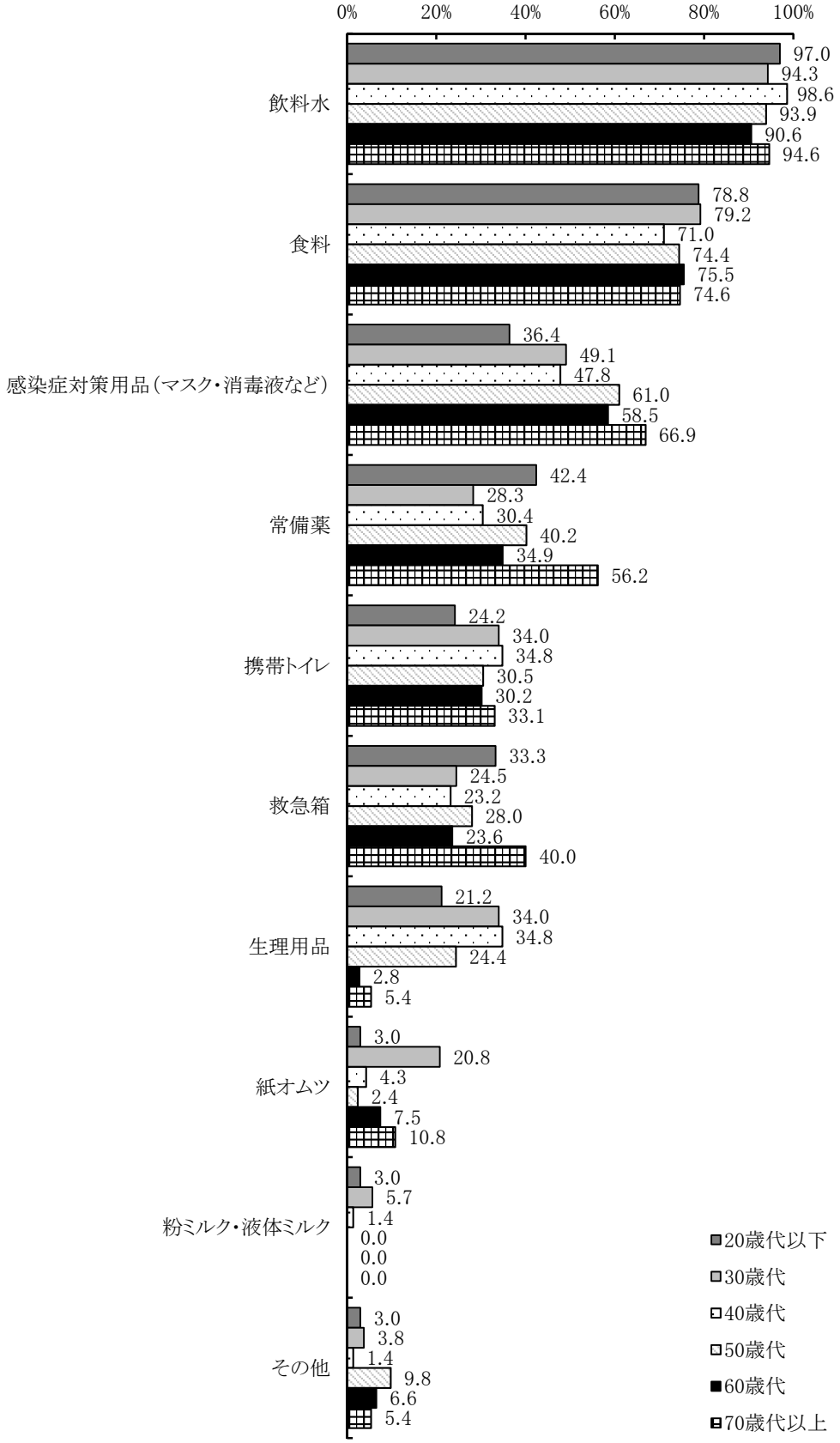


【年齢別】

年齢別にみると、全ての年齢層で「飲料水」と答えた人の割合が最も多く、次いで「食料」が多くなっている。

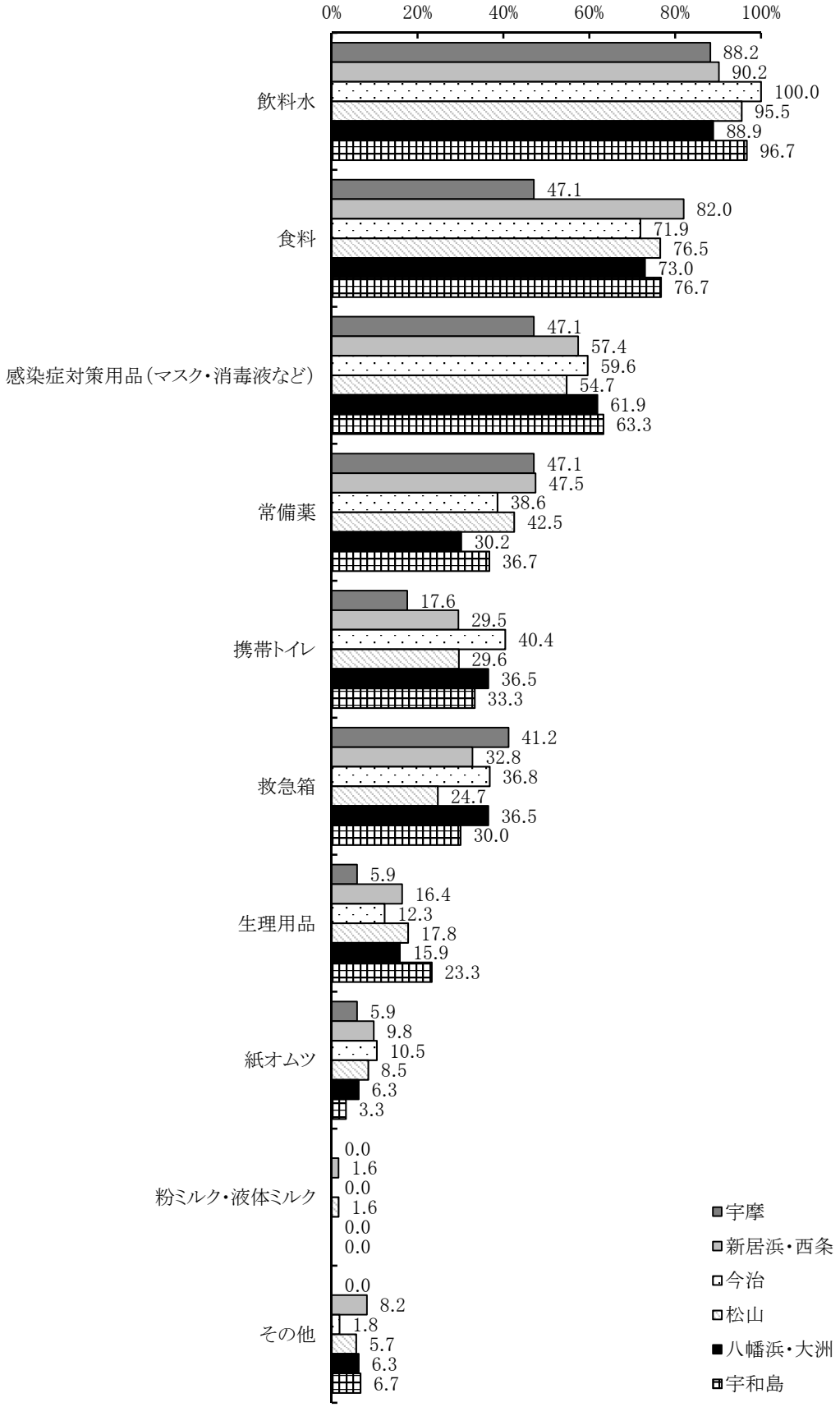
また、70 歳代以上では、「常備薬」及び「救急箱」と答えた人の割合が、30 歳代では「紙オムツ」が他の年齢層と比較して多くなっている。

一方、「感染症対策用品（マスク・消毒液など）」と答えた人の割合は、20 歳代以下で他の年齢と比較して少なくなっている。



【生活圏域別】

生活圏域別にみると、全ての圏域で、「飲料水」と答えた人の割合が最も多く、次いで「食料」が多くなっている。宇摩圏域では、「感染症対策用品（マスク・消毒液など）」及び「常備薬」と答えた人の割合も同率で多くなっている。



問 32-2　飲料水、食料の備蓄量

（問 32 で「飲料水、食料、生活必需品等の物資の備蓄」と答えた方に）

飲料水及び食料について、何日分の備蓄（※）をしていますか。次の中から一つ選んで番号を○で囲んでください。なお、それぞれ備蓄量が異なる場合は、少ない方の備蓄量をお答えください。

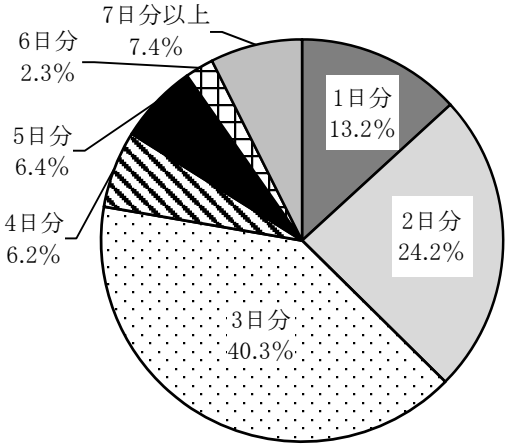
※１日分の備蓄量：飲料水については３Ｌで１日分とし、食料については３食で１日分とします。

（回答者＝４７１人）　（%）

１	１日分	１３．２
２	２日分	２４．２
３	３日分	４０．３
４	４日分	６．２
５	５日分	６．４
６	６日分	２．３
７	７日分以上	７．４

食料の備蓄日数について聞いたところ、「３日分」と答えた人の割合が 40.3%で最も多く、以下「２日分」(24.2%)、「１日分」(13.2%) などの順となっている。

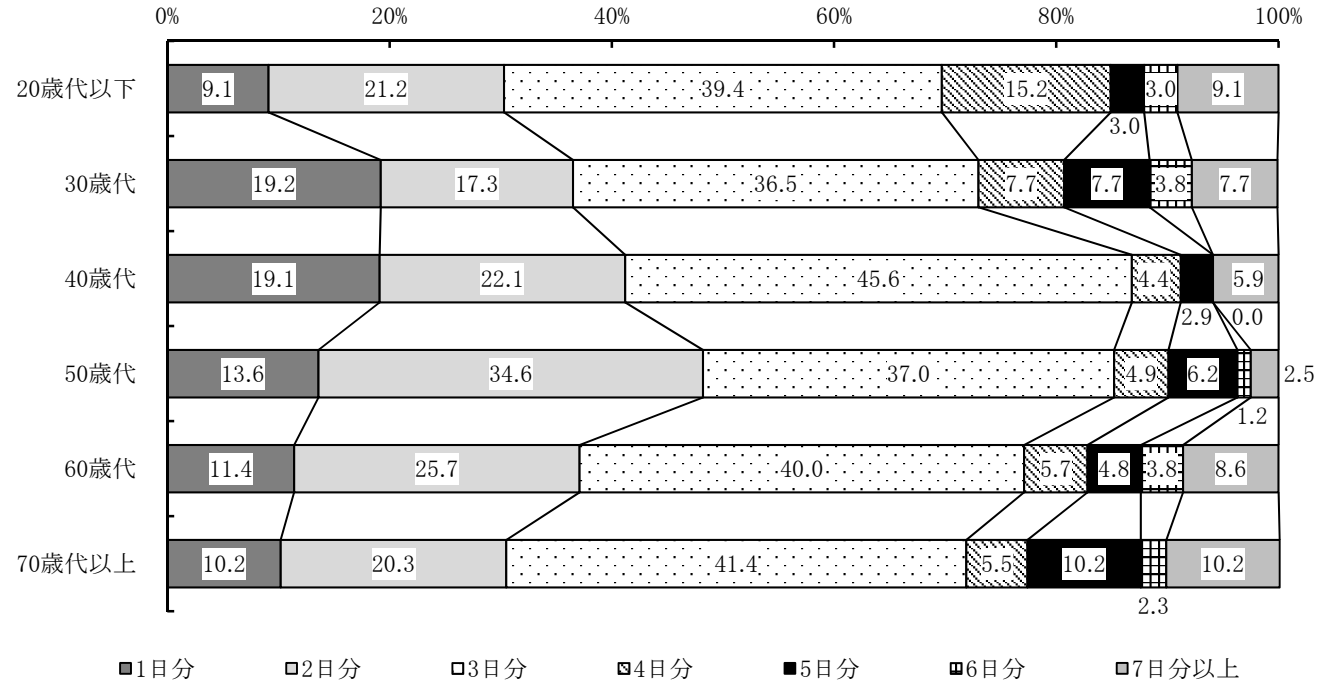
また、「４日分」以上と答えた人の割合は、22.3%となっている。



【年齢別】

年齢別にみると、全ての年齢層で「３日分」と答えた人の割合が最も多くなっている。

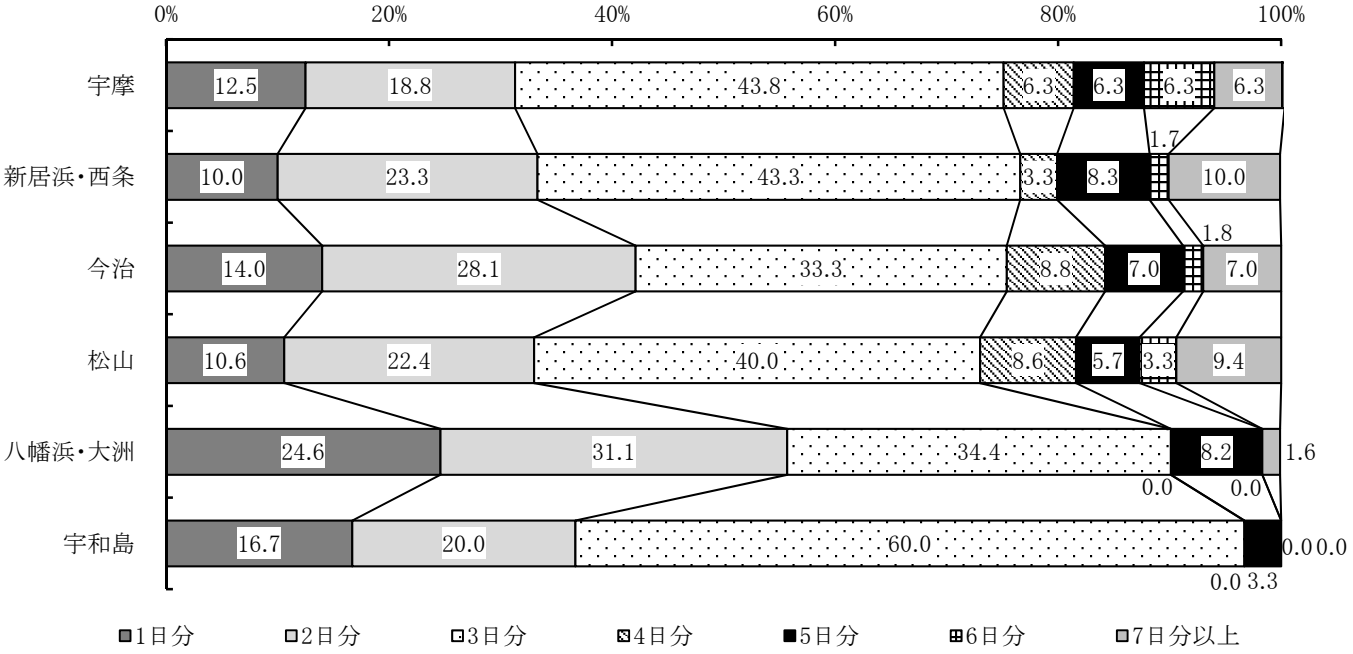
また、20 歳代以下では「４日分」以上と答えた人の割合が 30.3%と他の年齢層と比較して多くなっている。



【生活圏域別】

生活圏域別にみると、全ての圏域で「３日分」と答えた人の割合が最も多くなっている。

また、「４日分」以上と答えた人の割合は、松山圏域では 27.0%と他の圏域と比較して多く、八幡浜・大洲圏域及び宇和島圏域では１割未満と少なくなっている。



問 33　災害発生時の早期避難

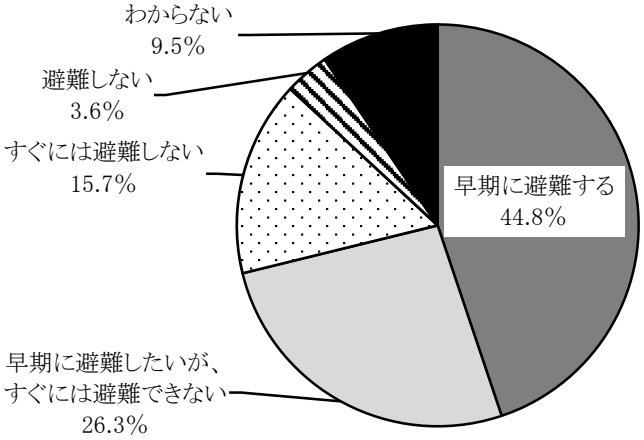
あなたは、強い地震が発生したとき、津波の発生に備えて早期に避難（※）しますか。次の中から**一つ選んで**番号を○で囲んでください。

なお、内陸にお住まいの方は、沿岸に滞在しているときに地震が発生したことを想定してお答えください。

※早期避難：昼間の場合は概ね５分以内、夜間の場合は概ね 10 分以内に避難を開始することを目安とする。

		（%）
1	早期に避難する	４４．８
2	早期に避難したいが、すぐには避難できない	２６．３
3	すぐには避難しない	１５．７
4	避難しない	３．６
5	わからない	９．５

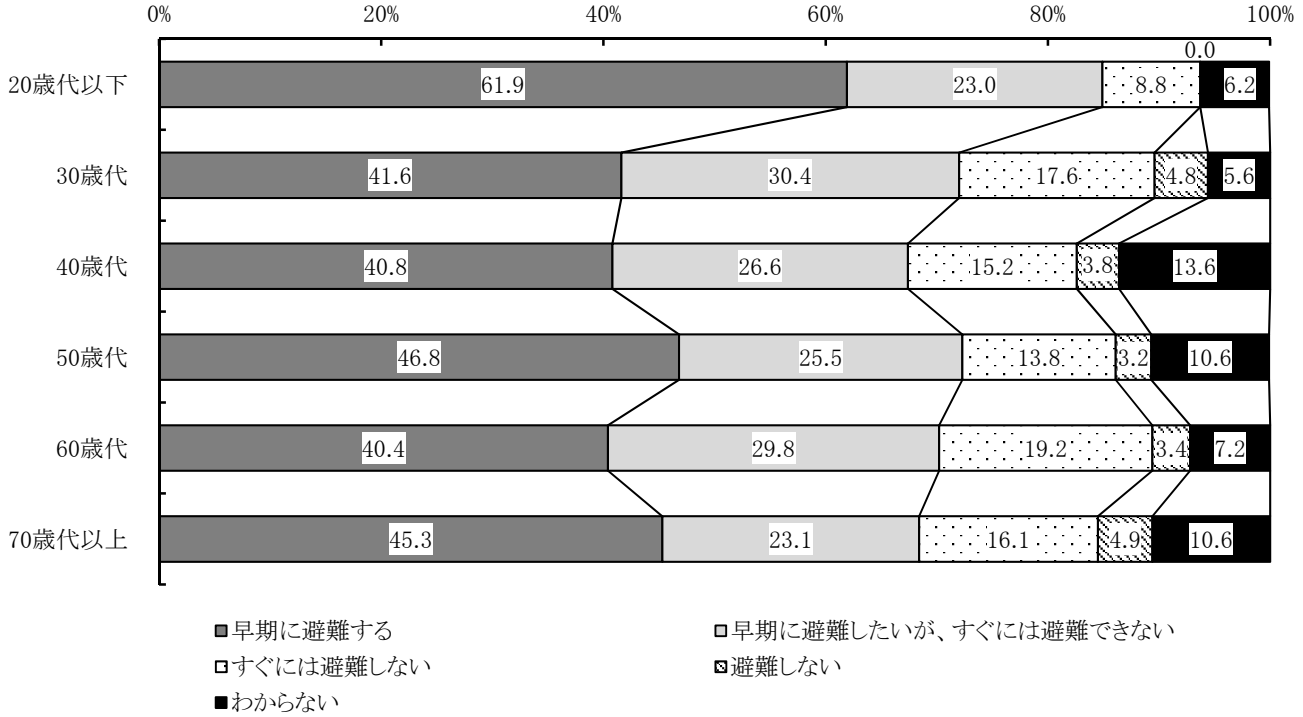
強い地震が発生したときや津波の発生に備えて早期避難するか聞いたところ、「早期に避難する」と答えた人の割合が44.8%で最も多く、以下「早期に避難したいが、すぐには避難できない」(26.3%)、「すぐには避難しない」(15.7%)、「わからない」(9.5%)、「避難しない」(3.6%)の順となっている。



【年齢別】

年齢別にみると、全ての年齢層で「早期に避難する」と答えた人の割合が最も多く、特に 20 歳代以下では 61.9%と他の年齢層と比較して多くなっている。

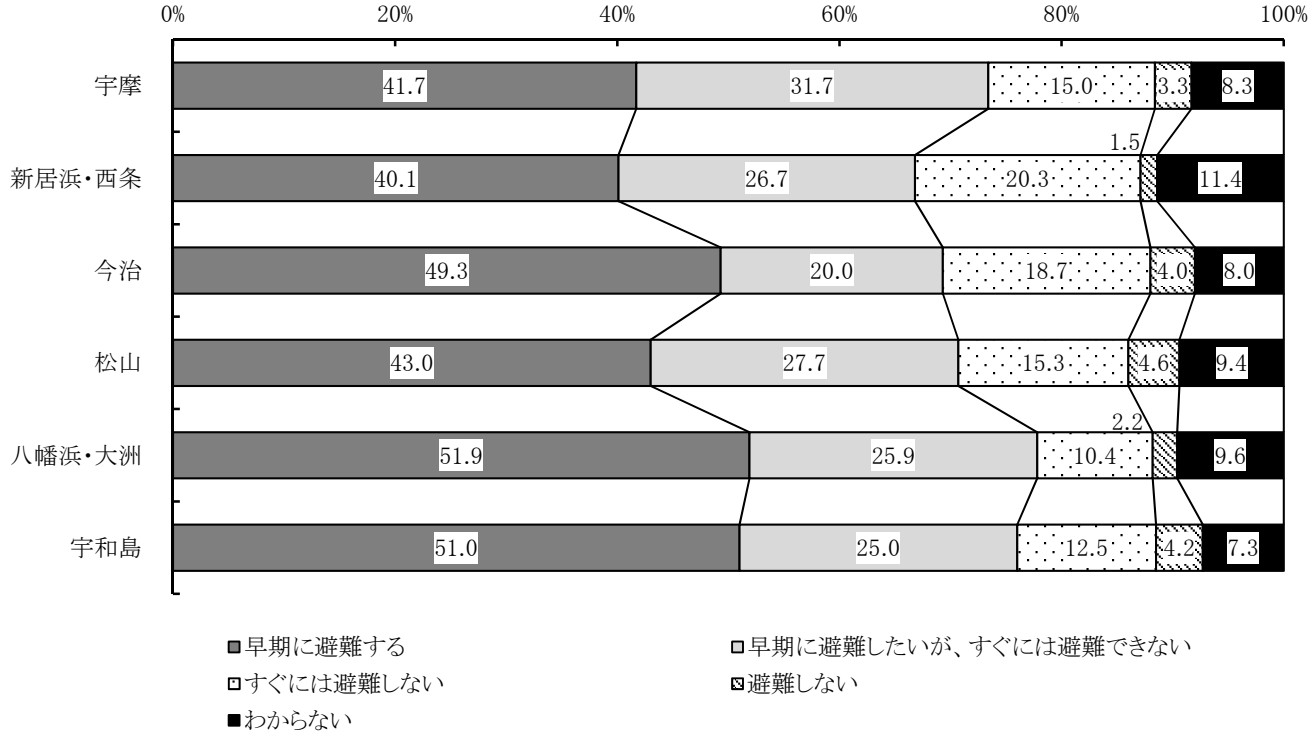
一方、「避難しない」と答えた人の割合は、70 歳代以上（4.9%）及び 30 歳代（4.8%）で多くなっている。



【生活圏域別】

生活圏域別にみると、全ての圏域で「早期に避難する」と答えた人の割合が最も多くなっている。

宇摩圏域では「早期に避難したいが、すぐには避難できない」と答えた人の割合が他の圏域と比較して多く、新居浜・西条圏域では「すぐには避難しない」が他の圏域と比較して多くなっている。

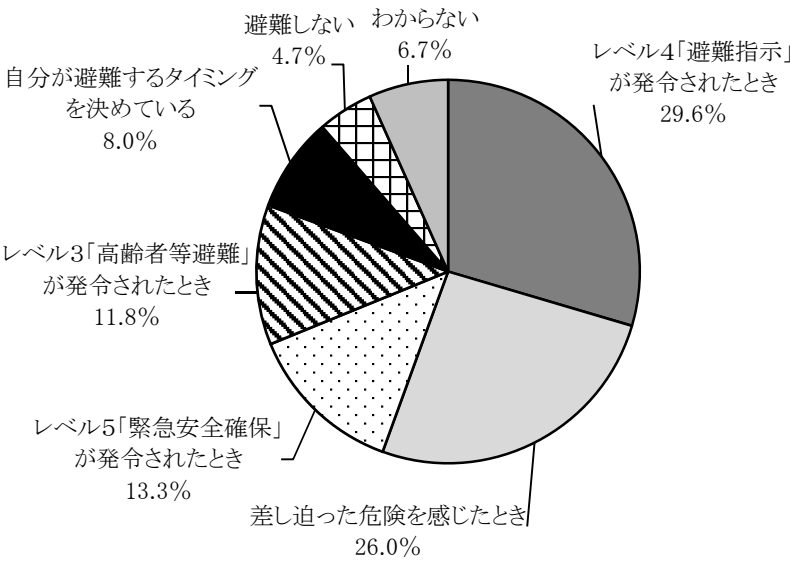


問 33-1　避難行動を取る情報判断の内容

あなたは、豪雨時に、自治体からどの避難情報が発令された段階で避難しますか。次の中から**一つ選んで**番号を○で囲んでください。

		(%)
1	レベル３「高齢者等避難」が発令されたとき	１１．８
2	レベル４「避難指示」が発令されたとき	２９．６
3	レベル５「緊急安全確保」が発令されたとき	１３．３
4	差し迫った危険を感じたとき	２６．０
5	自治体の避難情報にかかわらず、自分が避難するタイミングを決めている	８．０
6	避難しない	４．７
7	わからない	６．７

豪雨時に、自治体からどの避難情報が発令された段階で避難するか聞いたところ、「レベル４「避難指示」が発令されたとき」と答えた人の割合が29.6%で最も多く、以下「差し迫った危険を感じたとき」(26.0%)、「レベル５「緊急安全確保」が発令されたとき」(13.3%)、「レベル３「高齢者等避難」が発令されたとき」(11.8%) などの順となっている。

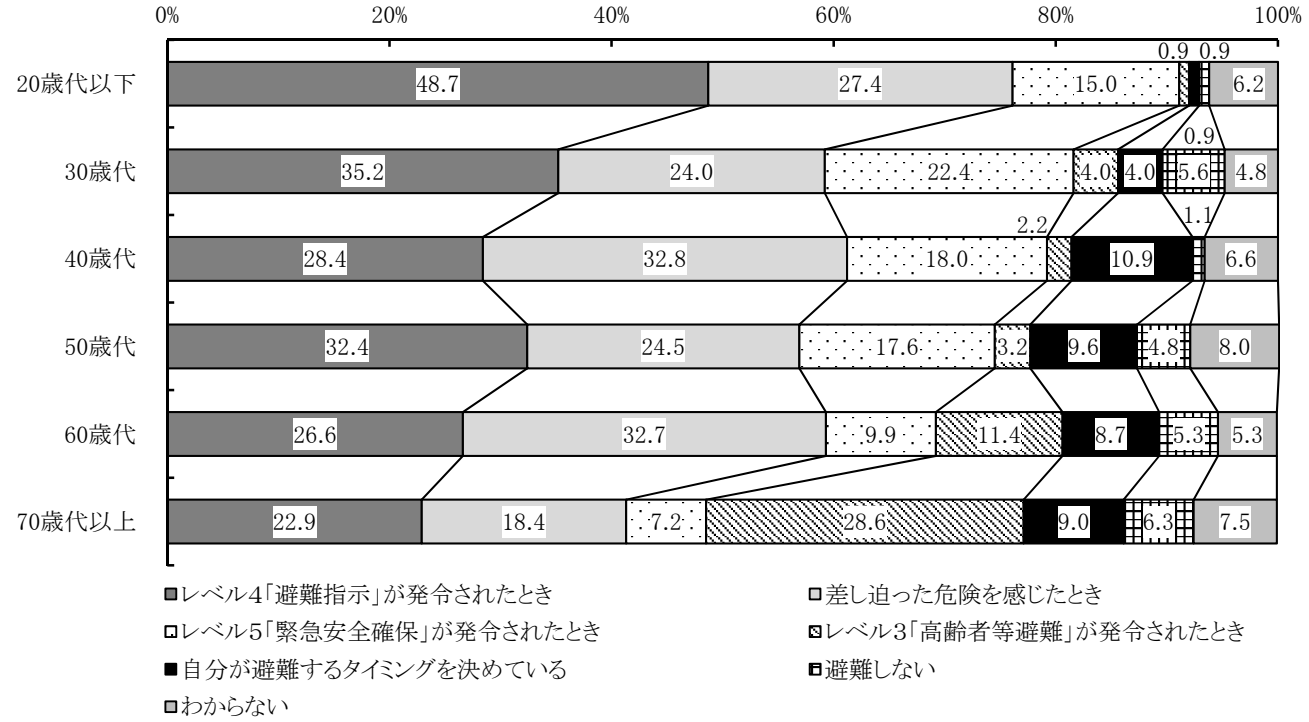


【年齢別】

年齢別にみると、30 歳代以下及び 50 歳代では、「レベル４「避難指示」が発令されたとき」と答えた人の割合が最も多く、特に 20 歳代以下では 48.7%と最も多くなっている。

また、40 歳代及び 60 歳代では、「差し迫った危険を感じたとき」と答えた人の割合が最も多く、70 歳代以上では、「レベル３「高齢者等避難」が発令されたとき」が最も多くなっている。

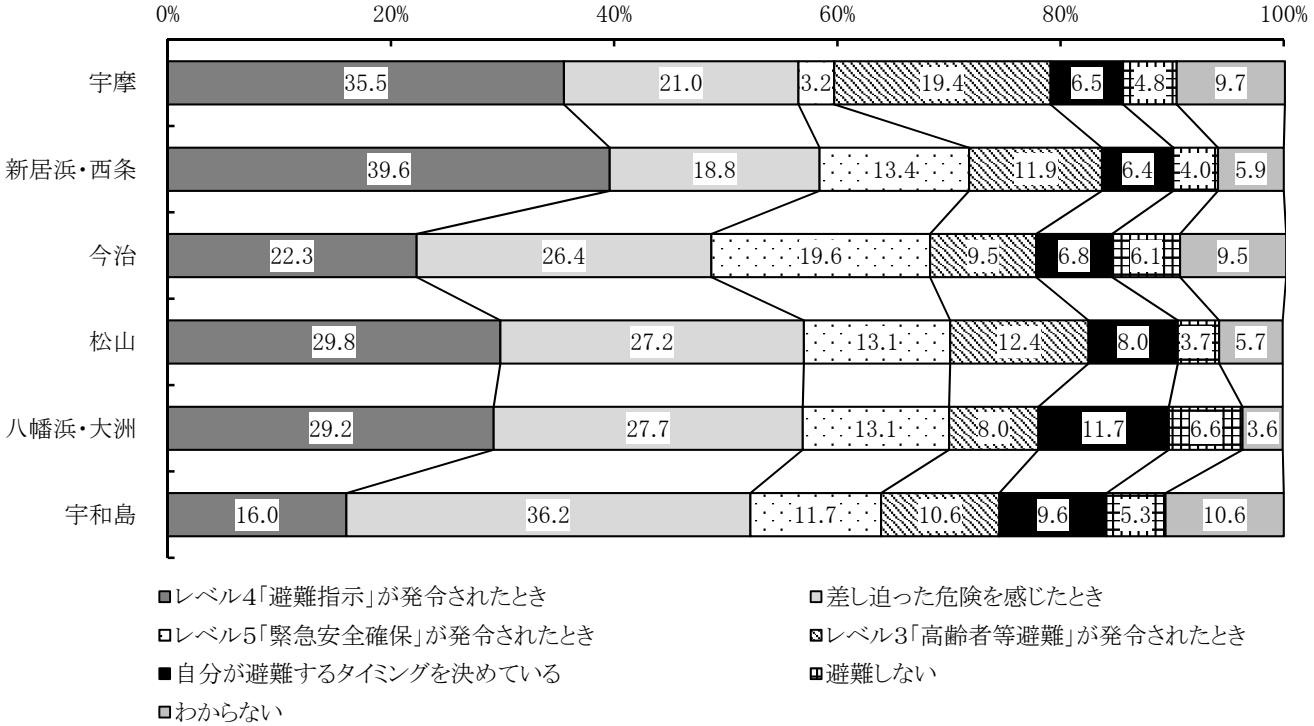
一方、全ての年齢層で、「避難しない」と答えた人の割合は、1 割未満となっている。



【生活圏域別】

生活圏域別にみると、今治圏域及び宇和島圏域を除く全ての圏域で、「レベル４「避難指示」が発令されたとき」と答えた人の割合が最も多く、今治圏域及び宇和島圏域では、「差し迫った危険を感じたとき」とが最も多くなっている。

また、全ての圏域で、「避難しない」と答えた人の割合が、1 割未満となっている。



問 34　地震に備えた家具類の固定

あなたのお宅では、地震に備えて家具類などが転倒しないよう固定をしていますか。次の中から**一つ選んで**番号を○で囲んでください。

		(%)
1	全部または大部分を固定している	８．６
2	一部のみ固定している	３３．８
3	固定していない	５７．６

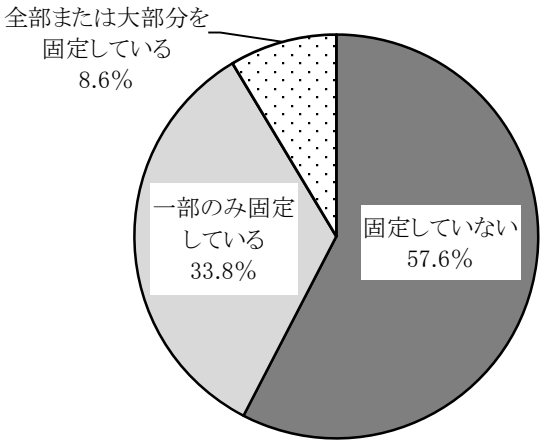
家具類の固定をしていない理由は何ですか。次の中から**二つまで選んで**番号を○で囲んでください。

《地震に備えた家具類の固定をしていない理由》

（回答者＝１，０６１人）（複数回答）

		(%)
1	手間がかかる	３６．５
2	費用がかかる	２５．０
3	固定の方法がわからない	１６．３
4	賃貸住宅のためできない	１３．９
5	建物や家具類を傷めてしまう	５．８
6	固定していなくても大丈夫だと思う	２３．４
7	固定をしても被害は出ると思う	１７．７
8	自分や家族が生きている間は、地震は起こらないと思っている	１．８
9	その他	１１．２

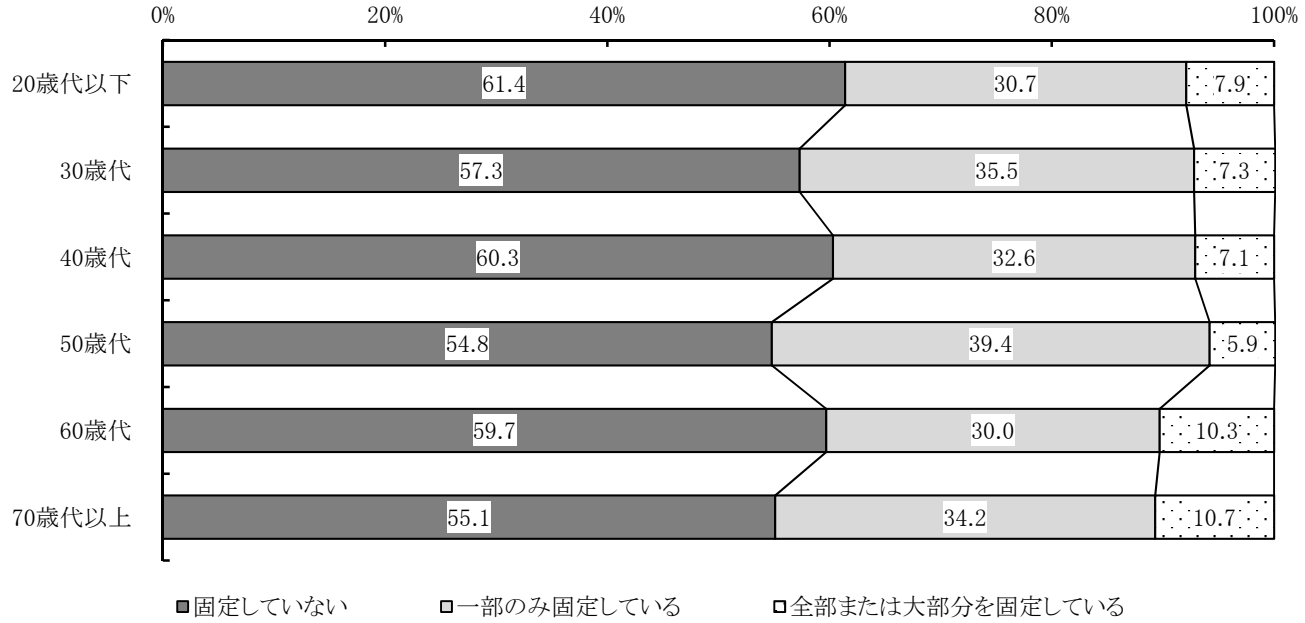
地震に備えて家具類など固定について聞いたところ、「固定していない」と答えた人の割合が57.6%で最も多く、以下「一部のみ固定している」(33.8%)、「全部または大部分を固定している」(8.6%) の順となっている。



【年齢別】

年齢別にみると、全ての年齢層で、「固定していない」と答えた人の割合が最も多くなっている。

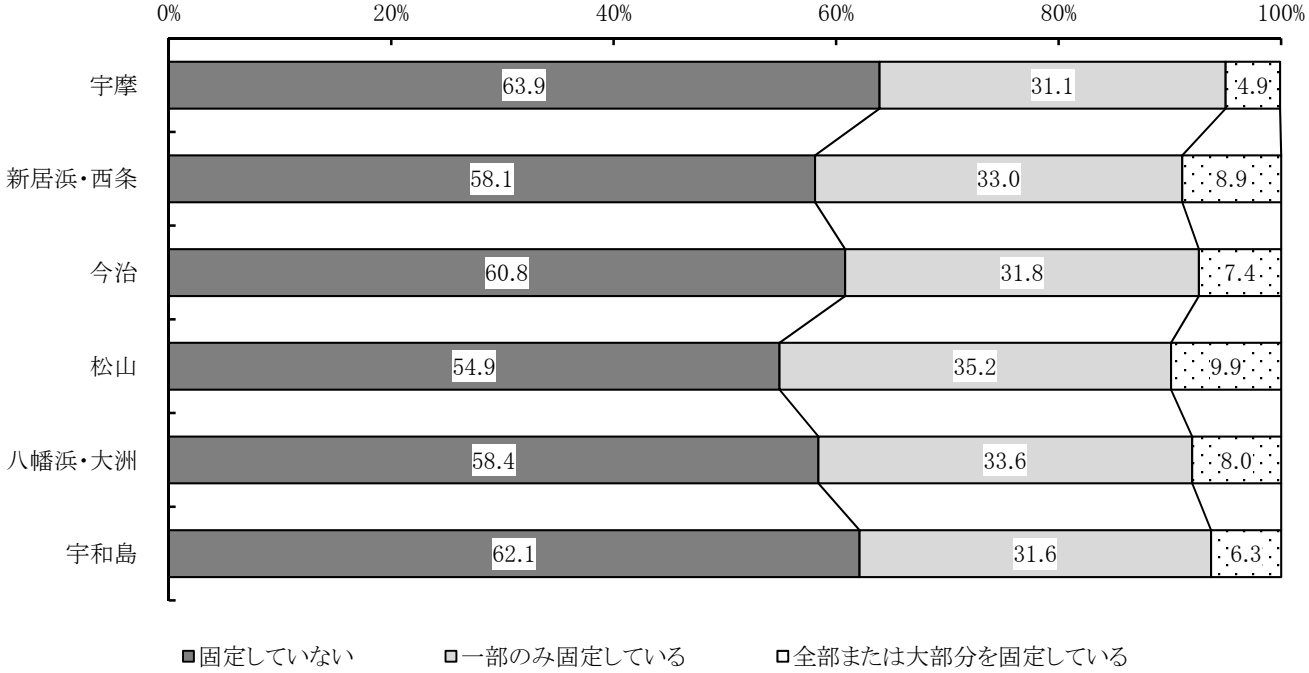
また、「全部または大部分を固定している」と答えた人の割合は、全ての年齢層で最も少なく、50 歳代以下では 1 割未満となっている。



【生活圏域別】

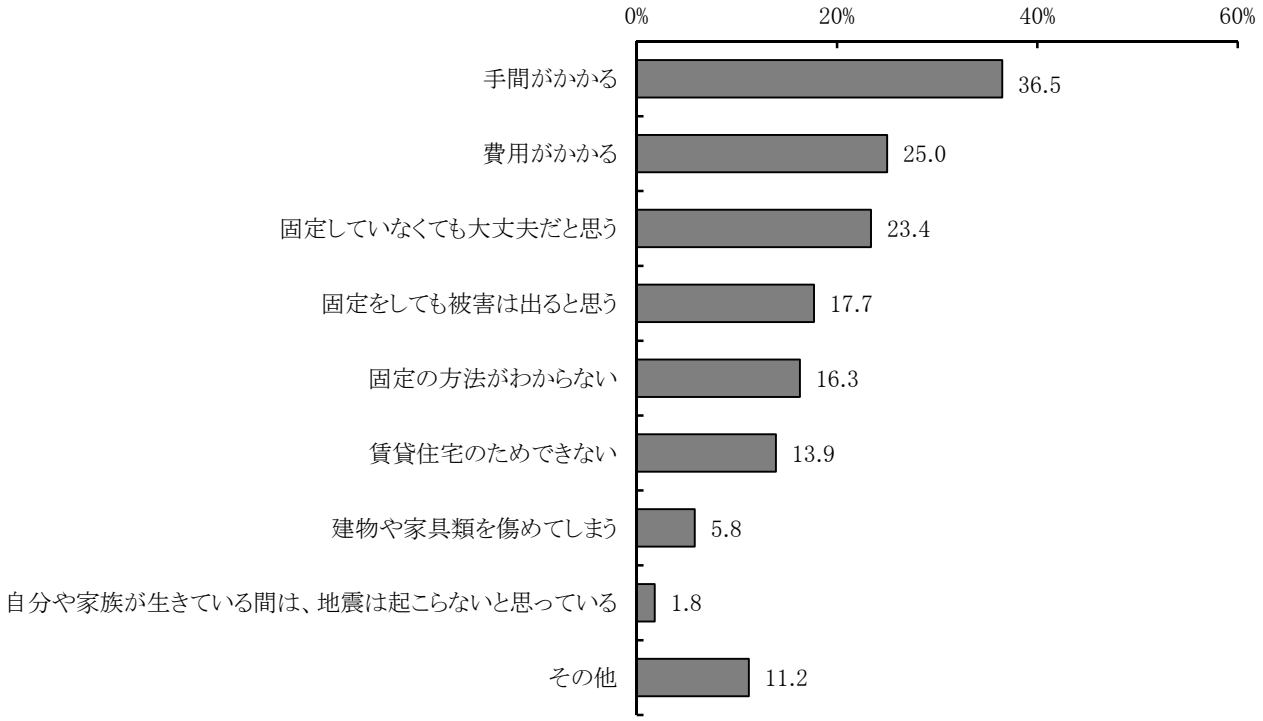
生活圏域別にみると、全ての圏域で、「固定していない」と答えた人の割合が最も多くなっている。

また、全ての圏域で、「全部または大部分を固定している」と答えた人の割合は、1 割未満となっている。



《地震に備えた家具類の固定をしていない理由》

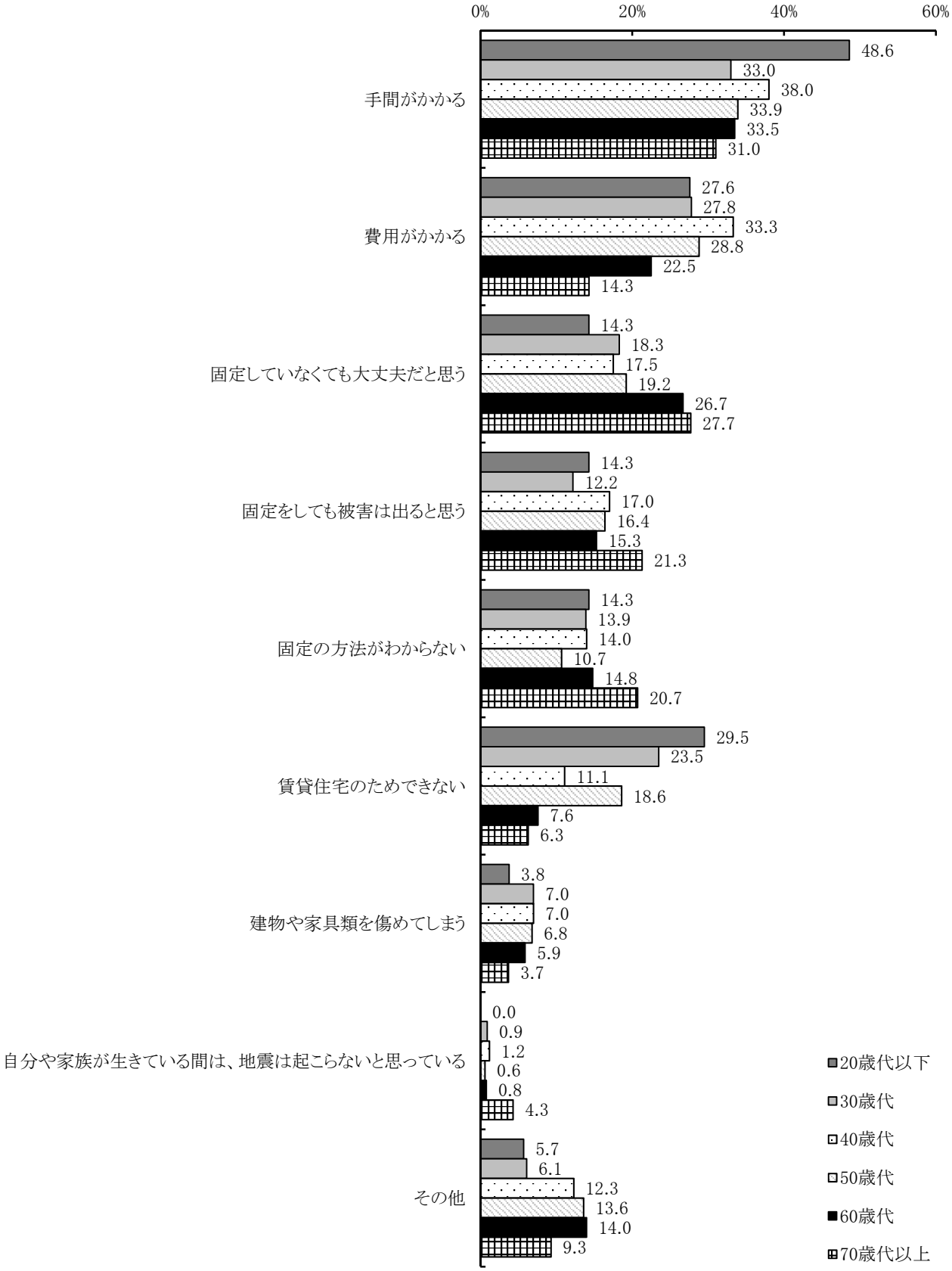
家具類の固定をしていない理由について聞いたところ、「手間がかかる」と答えた人の割合が 36.5%で最も多く、以下「費用がかかる」(25.0%)、「固定していなくても大丈夫だと思う」(23.4%)「固定をしても被害は出ると思う」(17.7%)、「固定の方法がわからない」(16.3%) などの順となっている。



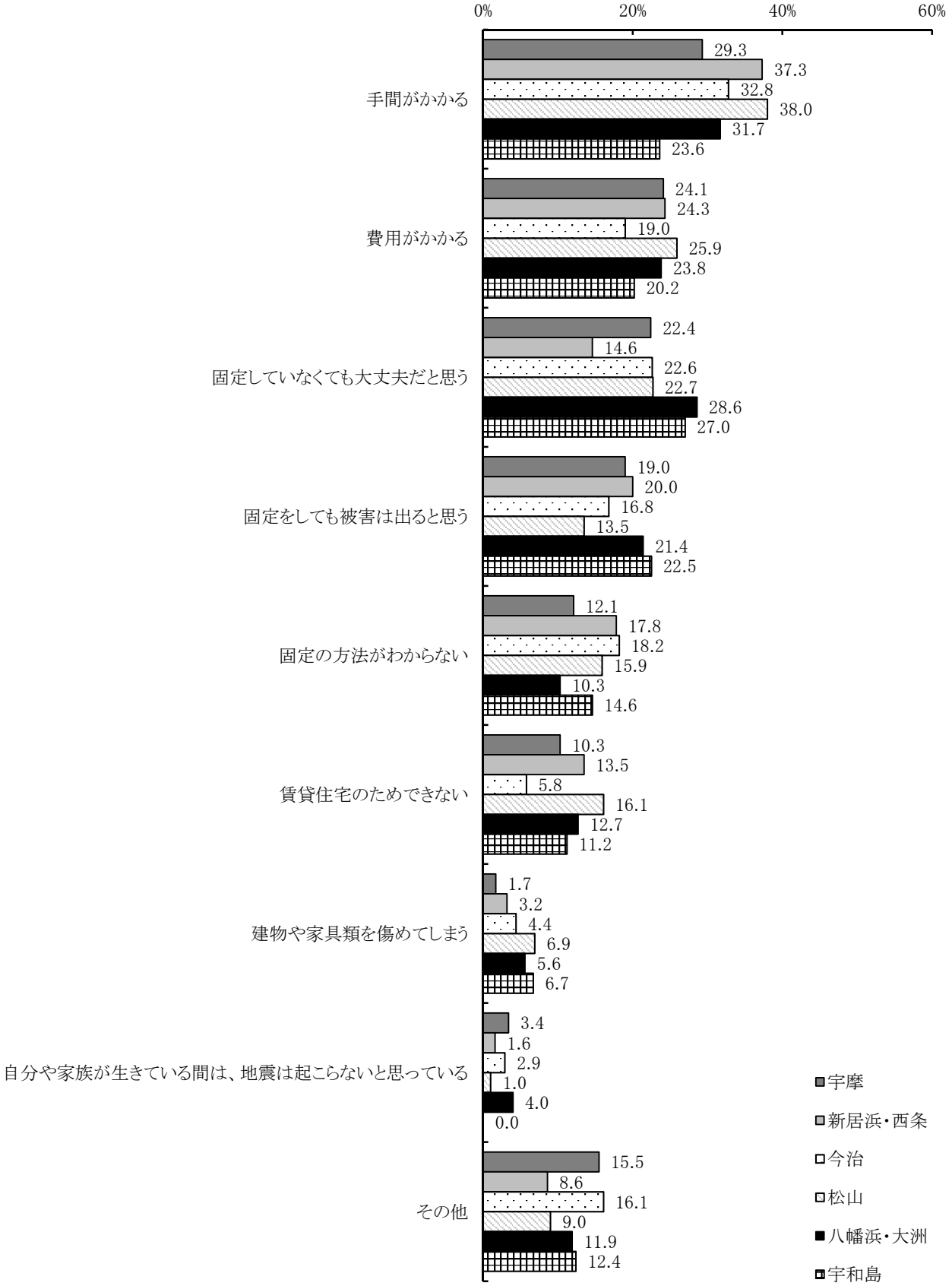
【年齢別】

年齢別にみると、全ての年齢層で「手間がかかる」と答えた人の割合が最も多くなっている。

また、「賃貸住宅のためできない」と答えた人の割合は、30 歳代以下で多く、「固定していなくても大丈夫だと思う」と答えた人の割合は、60 歳代以上で多く、70 歳代以上では「固定をしても被害は出ると思う」（21.3%）及び「固定の方法がわからない」（20.7%）が他の年齢層と比較して特に多くなっている。



【生活圏域別】

生活圏域別にみると、宇和島圏域を除く全ての圏域で、「手間がかかる」と答えた人の割合が最も多く、宇和島圏域では、「固定していなくても大丈夫だと思う」が最も多くなっている。

また、「賃貸住宅のためできない」と答えた人の割合は、松山圏域が最も多く、「固定していなくても大丈夫だと思う」は、八幡浜・大洲圏域でも多くなっている。